SoftBank Group

ソフトバンクグループ株式会社

第 40 回定時株主総会

2020 年 6 月 25 日

イベント概要

[日程]	2020 年 6 月 25 日
[時間]	午前 10 時～午前 11 時 35 分 （開催時間：1 時間 35 分）
[開催場所]	東京都港区東新橋一丁目 9 番 1 号 東京汐留ビルディング 25 階

[出席者]

13 名

代表取締役会長 兼 社長	孫　正義（以下、孫）
取締役副会長	ロナルド・フィッシャー
取締役副社長 COO	マルセロ・クラウレ
取締役副社長 CSO	佐護　勝紀
取締役副社長	ラジーブ・ミスラ
取締役	宮内　謙
取締役	サイモン・シガース
取締役	ヤシル・アルルマヤン
社外取締役 独立役員	飯島　彰己
社外取締役 独立役員	松尾　豊
監査役	須﨑　將人
社外監査役 独立役員	遠山　篤
社外監査役 独立役員	窪川　秀一

[報告事項]

・2019 年度（2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日まで）事業報告、連結計算書類ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件

・2019 年度（2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日まで）計算 書類報告

[決議事項]

・第 1 号議案 剰余金の処分の件

・第 2 号議案 取締役 13 名選任の件

登壇

孫：定刻になりましたので、始めさせていただきます。おはようございます。代表取締役会長 兼社長の孫正義でございます。株主の皆さまにはご多忙のところ、ご出席くださりまして誠にありがとうございます。日頃より格別のご支援を賜り、この席をお借りして厚く御礼申し上げます。

株主の皆さまへ

平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社の第40回定時株主総会招集ご通知をお届けいたします。

2019年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、ソフトバンク・ビジョン・ファンド(注)において1.9兆円の評価損失（純額）を計上しました。その結果、連結営業損失は1.36兆円、連結純損失は9,616億円となりました。

こうした中、2020年３月13日に上限5,000億円の自己株式の取得を発表し、さらに2020年３月23日に最大4.5兆円の当社保有資産の売却または資金化の方針を発表しました。売却または資金化で得られる資金のうち最大２兆円を自己株式の取得に充て、残額を負債の償還、社債の買入れ、現預金残高に振り向けることで株主還元と財務改善の両立を目指す計画です。

明るい話題としては、2020年４月１日（米国東部時間）、当社子会社スプリントのTモバイルとの合併が完了しました。統合により想定されるシナジーが統合会社の価値を増大させるものと確信しています。

ソフトバンクグループは、「情報革命で人々を幸せに」という経営理念の下、株主価値のさらなる向上に取り組んでまいります。株主の皆さまにおかれましては、ご理解とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

2020年６月10日

（注）SoftBank Vision Fund L.P.および代替の投資ビークル（傘下の子会社を含む）

当社定款第 13 条の定めにより、私が本総会の議長を務めさせていただきます。

それでは、ただ今より、第 40 回定時株主総会を開会いたします。

本日は新型コロナウイルス感染症拡大のリスクを最小限に抑えるべく対策を講じた上で、本総会を開会しています。このため、本総会は株主の皆さまのご協力の下、会場への来場は原則としてご遠慮いただいています。

一方で、本総会の専用サイトを通じて議決権行使、ご質問などが可能となるインターネット出席の方法を新たに採用しています。本日は専用サイトからも、多くの株主さまにご出席いただいています。

また、私を含めた当社役員についても、全員がウェブ会議システムによる出席とさせていただいています。なお、取締役ユン・マーは、やむを得ない事由により欠席しています。あらかじめご了承ください。

また、株主さまからいただいたご質問、審議に対する一切のご発言は、会場にご来場の株主さまも含めて、全て専用サイトからの受付とさせていただきます。ご発言のある方は、専用サイトに表示されているご発言ボタンをクリックいただき、ご発言の入力をお願いいたします。

また、本総会は 1 時間を目安に終了とさせていただきたく、報告事項および決議事項についてのご質問などにつきましては、本日の目的事項に関するもののみといたします。

ご発言はすでに受け付けさせていただいていますが、質疑応答の開始から 5 分後で締め切らせていただきます。それまでの間にご入力をお願いいたします。また、多くの株主さまがおられますので、ご質問はお一人様 1 問、動議は種類ごとに一つのみとさせていただき、簡潔に要点のみでお願いいたします。

時間等の関係で、いただいたご質問につきましては、本日の目的事項に関するものの中で、特に株主さまのご関心が高いものを中心に取り上げさせていただきます。ご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

本日の会議の目的事項は、招集通知 3 ページに記載の通りでございます。併せて、本日出席いただいています株主さまの有する議決権数で、議案の審議に必要な定足数を満たしていることを報告いたします。

それでは、報告事項について報告いたします。報告事項は招集通知 21 ページから 58 ページ、および 61 ページ、ならびにインターネット上の当社ウェブサイトに掲載の通りでございます。

また、事業の概要を説明したビデオを用意していますので、ご覧ください。

ビデオ：情報革命時代の戦略的持株会社へ。2019 年度のソフトバンクグループは株主価値の最大化に向け、人工知能、AI をサービスやビジネスモデルに活用した多様な企業群とともに、情報革命を力強く牽引しました。

2019 年度の売上高は 6 兆 1,851 億円となり、前期比 1.5%の増加となりました。営業損失は 1 兆 3,646 億円となり、前期比 3.4 兆円の悪化となりました。純損失は 9,616 億円となり、前期比 2.4 兆円の悪化となりました。中間配当の 22 円と合わせた 2019 年度の年間配当は、2018 年度と同額の 1 株当たり 44 円を予定しています。なお新型コロナウイルス感染拡大に伴う不確実性を鑑み、2020 年度の配当は未定の方針です。

2017 年に活動を開始したソフトバンク・ビジョン・ファンド（以下、「SVF」）は、AI を活用した成長可能性の大きな企業に対し、大規模な投資を行い、中長期的視点から投資成果を最大化することを目指しています。2020 年 3 月末現在、上場している 8 銘柄を含む 88 銘柄を保有しています。

SVF は開始以来、2020 年 3 月末時点で、評価益や実現益を 1.4 兆円計上したものの、Uber、WeWork などの公正価値の減少や、新型コロナウイルスの感染拡大の影響に伴うその他の投資先の公正価値の大幅な減少により、評価損失、実現損失を 1.5 兆円計上しました。その結果、累計の投資損失は 0.1 兆円となりました。なお上場している 8 銘柄の累計損益は、2020 年 3 月末で 1,530 億円のプラスとなりました。

昨今の世界的な新型コロナウイルスの感染拡大は、SVF の投資先の事業活動に大きな影響を与えていますが、SVF などを運営する、SB Investment Advisers (UK) Limited は投資先企業と緊密に連携し、事業運営の支援や戦略への指導を提供するなど、経済悪化局面における事業への悪影響を低減すべく取り組んでいます。

日本国内で主に通信事業を営むソフトバンク株式会社（以下「SBKK」）は、引き続き通信事業の強化による顧客基盤の拡大と、新規ビジネスの創出に取り組む、Beyond Carrier 戦略を推進しています。通信事業ではソフトバンク、ワイモバイル、LINE モバイルの 3 ブランドを擁し、スマートフォンの普及拡大に向けたさまざまなサービスを展開。スマートフォンの累計契約数が順調に拡大しました。

2020 年 3 月には超高速・大容量、他接続、超低遅延の通信を可能とする、次世代通信規格 5G の商用サービスの提供を開始。今後も順次、5G 対応エリアを拡大しながら、働き方や生活そのものを大きく変化させる可能性のあるサービスの提供を推進していきます。

また、新規ビジネスをさらに拡大させるため、拡大期にある合弁会社での集中投資を行うとともに、今後成長が期待される市場への新規参入を果たしました。

こうした取り組みの結果、ソフトバンク事業の 2019 年度の営業利益は 9,233 億円となり、前期比 7.4%の増加となりました。

なお、2019 年 11 月に SBKK の子会社である Z ホールディングスが ZOZO を子会社化したことに加えて、同 12 月には Z ホールディングスが LINE との経営統合に関する最終契約を締結しました。

SBKK は、これからも Beyond Carrier 戦略の下、通信事業者としての枠を超え、グループ各社や出資先の有力企業などとの協働を通じて、最先端技術を活用した新しいビジネスの展開を目指していきます。

米国内の通信事業者スプリントは、2020 年 4 月 1 日、同じく米国内の通信事業者 T モバイルとの合併を完了しました。これに伴い、スプリントは当社の子会社ではなくなりましたが、当社は統合後の新会社である新 T モバイルの株式を約 24%保有し、持分法適用関連会社としています。

新 T モバイルは 5G ネットワークの構築に十分な幅の広さと密度を兼ね備えたネットワークを持ち、より手頃な価格や高い通信品質、価値を提供するとともに、米国通信市場においてさらなる競争をもたらしていくと期待されます。

IoT 時代の中心的な役割を担うと期待されるアームは、2016 年の当社による買収後、技術関連人員を増強し、さまざまな分野で研究開発への投資を加速しています。2019 年度はその成果が徐々に結実し、アームの重点投資分野において複数の新テクノロジーが発表されました。

モバイルコンピューティングの分野では、AI を搭載した次世代スマートフォン向けの新プロセッサー、Ethos-N78 や Cortex-A78 などを発表。2019 年 12 月には世界最大のクラウドコンピューティングカンパニーである AWS が、Arm Neoverse テクノロジーの最新バージョンを採用した Graviton 2 を発表。

ソフトバンクグループは、今後もアームを最も重要な戦略的子会社の一つとして位置づけ、その潜在力を最大限に引き出しながら、グローバルな成長戦略を推進していきます。

中国などで主に E コマース事業を展開するアリババグループでは、中核事業である E コマース事業やクラウド事業などが引き続き順調に拡大しました。その結果、アリババグループの 2020 年 3 月期の売上高は 7 兆 9,821 億円となり、前期比 35%の増加。純利益は 2 兆 746 億円となり、前期

比 42%の増加。また、フリーキャッシュフローは 2 兆 501 億円となり、前期比 25%の増加となりました。

2020 年 3 月、当社は大規模な株主還元と財務改善の施策を発表しました。3 月 13 日に株主還元の充実を目的とした、最大 5,000 億円の自己株式の取得を発表。また、3 月 23 日には自己株式の取得と負債削減を目的とした、最大 4.5 兆円の当社保有資産の売却、または資金化を行うプログラムを決定しました。

本プログラムを通じ得られた資金のうち、最大 2 兆円を自己株式の取得に、そして残額を負債の償還、社債の買入れ、現預金残高に充当します。当社は本プログラムを通じ、バランスシートをさらに強化することを目指しています。

2020 年初頭からの新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に伴い、多くの国が都市封鎖を行ったことなどから、人や物の流れが停滞し、人々の生活は一変しました。そのような状況の中、当社はこれまでの事業で培ったさまざまな人的ネットワークを活用し、社会貢献活動の一環としてさまざまな物資の緊急調達を実施。

抗体検査キットの無償提供やマスク、防護服などの物資の調達、無利益での販売などを通じて、感染拡大防止のために最前線で奮闘されている医療関係者、介護関係者などを支援する取り組みを進めています。

当社は、情報革命時代の戦略的持株会社として、株主価値の最大化を目指し、これからも邁進していきます。

「情報革命で人々を幸せに」

孫：以上、ビデオにより説明をいたしました。

それでは、ここで本日の決議事項を上程の上、内容を説明いたします。今後の進行につきましては、この決議事項の内容説明、および事業戦略説明の後に、報告事項および決議事項についての質疑応答に移り、質疑応答終了の後は、決議事項につき採決のみをさせていただきたいと思います。

その他今後の議事進行につきましては、先ほど申し上げたかたちで行いたいと思います。このような進行に賛成いただける方は、専用サイトに表示されている賛成を選択いただき、送信ボタンのクリックをお願いいたします。

それでは、これより決議の結果を確認いたしますので、しばらくお待ちください。

ご入力ありがとうございます。ご賛成が過半数に達しましたので、この方法で行わせていただきます。

株主総会参考書類

第１号議案　剰余金の処分の件

当社は、財務体質の健全性を保ちつつ、持続的成長に向けた積極的な投資と株主の皆さまへの利益還元を両立させることを基本方針としています。このような方針のもと、剰余金の配当につきましては、中間配当と期末配当の２回実施を原則として、当期の期末配当金を、次のとおりとしたいと存じます。

なお、中間配当（１株当たり22円）と合わせた年間配当は、１株当たり44円となります。

1 **配当財産の種類**
金銭

2 **株主に対する配当財産の割当てに関する事項およびその総額**
当社普通株式１株につき22円
総額 45,495,908,898円

3 **剰余金の配当が効力を生じる日**
2020年６月26日

7

第 1 号議案は剰余金の処分の件でございます。議案の詳細は招集通知 7 ページに記載の通りでございます。

今年度の期末配当金につきましては、1 株につき 22 円とさせていただきたいと思います。なお、中間配当と合わせた年間配当は、1 株当たり 44 円となります。

第２号議案　取締役13名選任の件

現任取締役11名は、本総会終結の時をもって任期満了となりますので、経営体制の強化を図るため、取締役を２名増員し、取締役13名の選任をお願いするものです。

取締役候補者は次のとおりです。

候補者番号		氏名		現在の当社における地位
1	再任	孫　正義（そん　まさよし）		代表取締役会長 兼 社長
2	再任	ロナルド・フィッシャー		取締役副会長
3	再任	マルセロ・クラウレ		取締役副社長 COO
4	再任	佐護　勝紀（さご　かつのり）		取締役副社長 CSO
5	再任	ラジーブ・ミスラ		取締役副社長
6	新任	後藤　芳光（ごとう　よしみつ）		専務執行役員 CFO 兼 CISO
7	再任	宮内　謙（みやうち　けん）		取締役
8	再任	サイモン・シガース		取締役
9	再任	ヤシル・アルルマヤン		取締役
10	再任	飯島　彰己（いいじま　まさみ）	社外取締役 独立役員	取締役
11	再任	松尾　豊（まつお　ゆたか）	社外取締役 独立役員	取締役
12	新任	リップブー・タン	社外取締役 独立役員	—
13	新任	川本　裕子（かわもと　ゆうこ）	社外取締役 独立役員	—

次に、第２号議案は取締役 13 名選任の件でございます。

現任の取締役 11 名は本総会終結の時をもって任期満了となりますので、経営体制の強化を図るため、取締役２名を増員し、取締役 13 名の選任をお願いするものであります。議案の詳細は、招集通知８ページから 18 ページに記載の通りでございます。

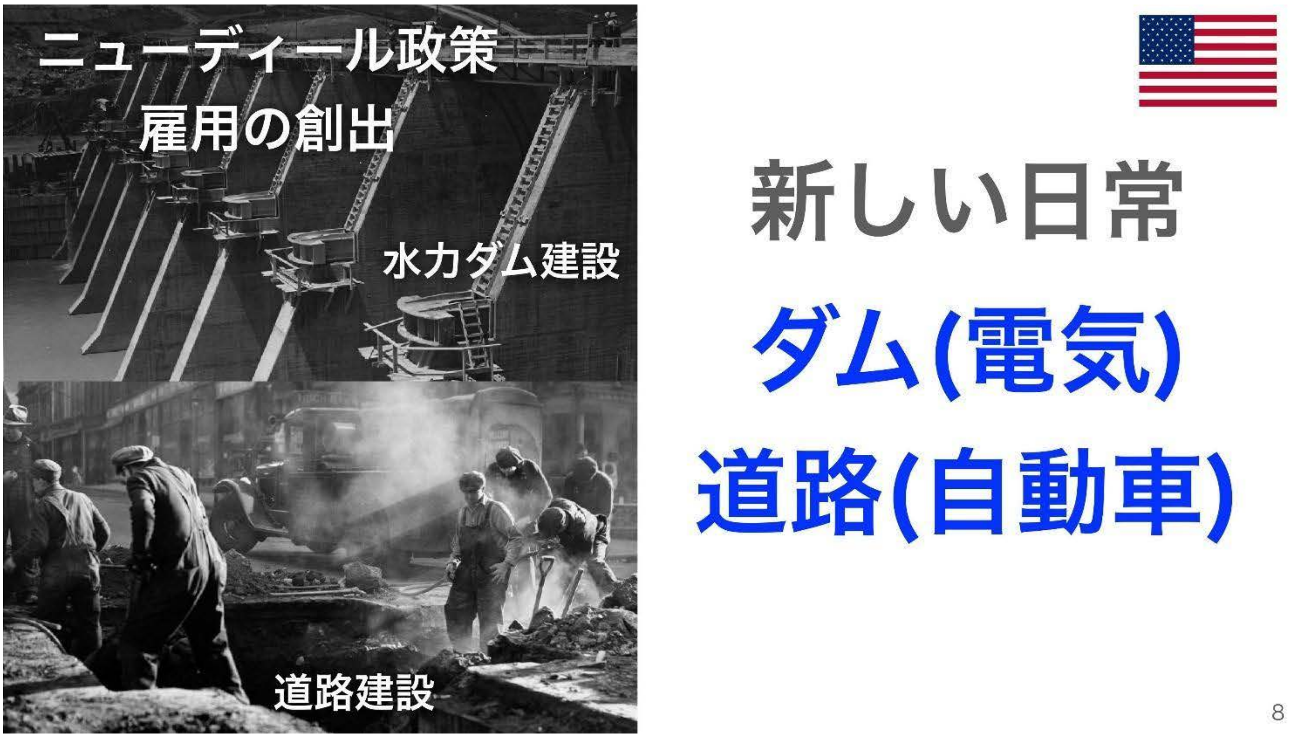
それでは、ただ今から、今後の事業戦略を説明します。

人類の歴史、ちょっと振り返って見てみたいと思いますが、危機が新しい日常を生むと私は思っています。

例えば、19 世紀、コレラが大流行しました。疫病の危機ということで、1832 年、英国をスタートに約 100 万人の人が亡くなったわけです。

それを解決するために、下水道が整備されて、新しい日常として、人々が当然のように安全な水を飲むことができるインフラができたわけです。

1929 年には世界恐慌がありました。経済が大きく破綻して、1,300 万人もの失業が生まれました。失業率は 25％で、4 人に 1 人が失業したことになるわけです。



この問題を解決するため、ニューディール政策が打ち出されました。雇用創出のため、水力ダムや道路などが建設されました。その結果、新しい日常として人々には電気のある生活、そして自動車のある社会がやってきたわけです。

今回の新型コロナ危機は、世界の人々に影響を与える大変な危機であると捉えています。

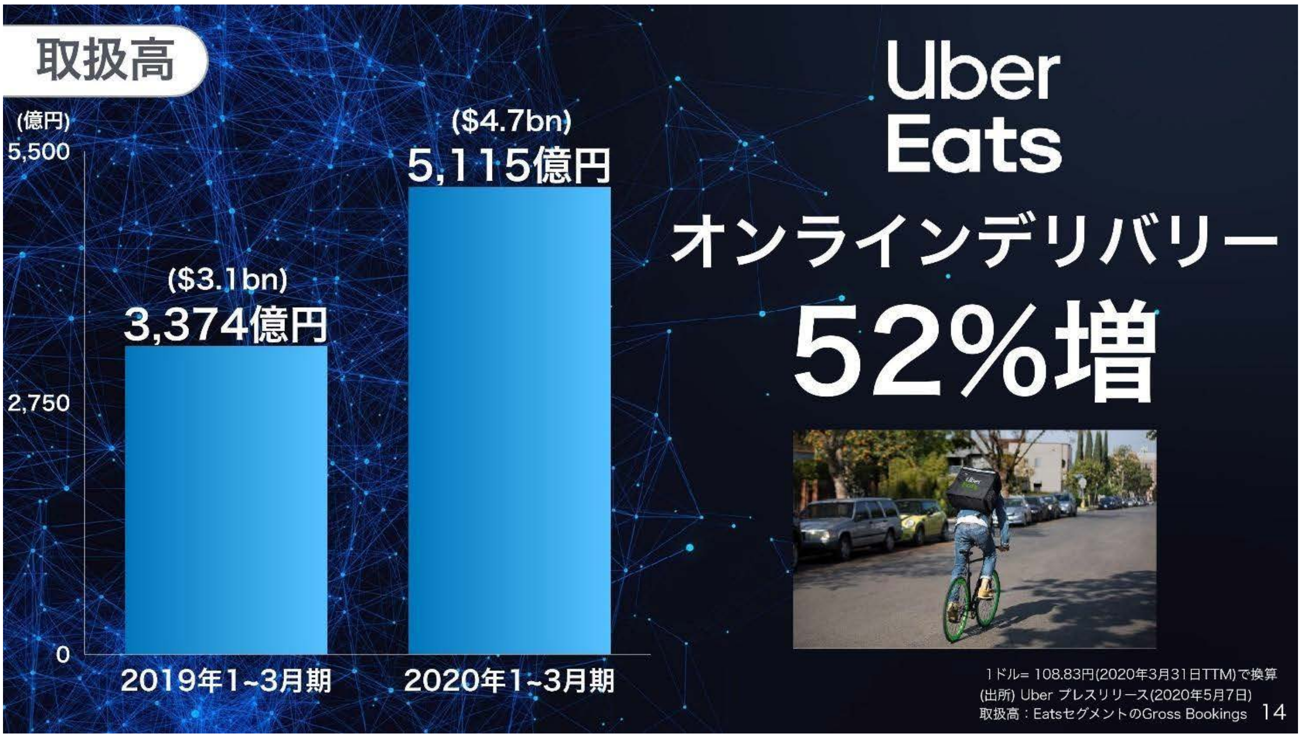
900 万もの人の感染が確認をされました。結果、人々との接触にはさまざまな制限がなされることになったわけです。

これを解決する新しい日常として、私はデジタルシフトが一気に加速すると思います。

人と安易に接することができない、接することによって感染病がより広がることになるわけですから、接触しなくても人々がやり取りできるようにするために、オンライン会議、オンラインデリバリー、オンライン教育、オンライン診療、オンラインショッピング、オンラインエンターテインメントなど、オンラインで人々がさまざまなコミュニケーションをとる。あるいは、やり取りをし始めたわけです。これが新しい日常になるのではないでしょうか。

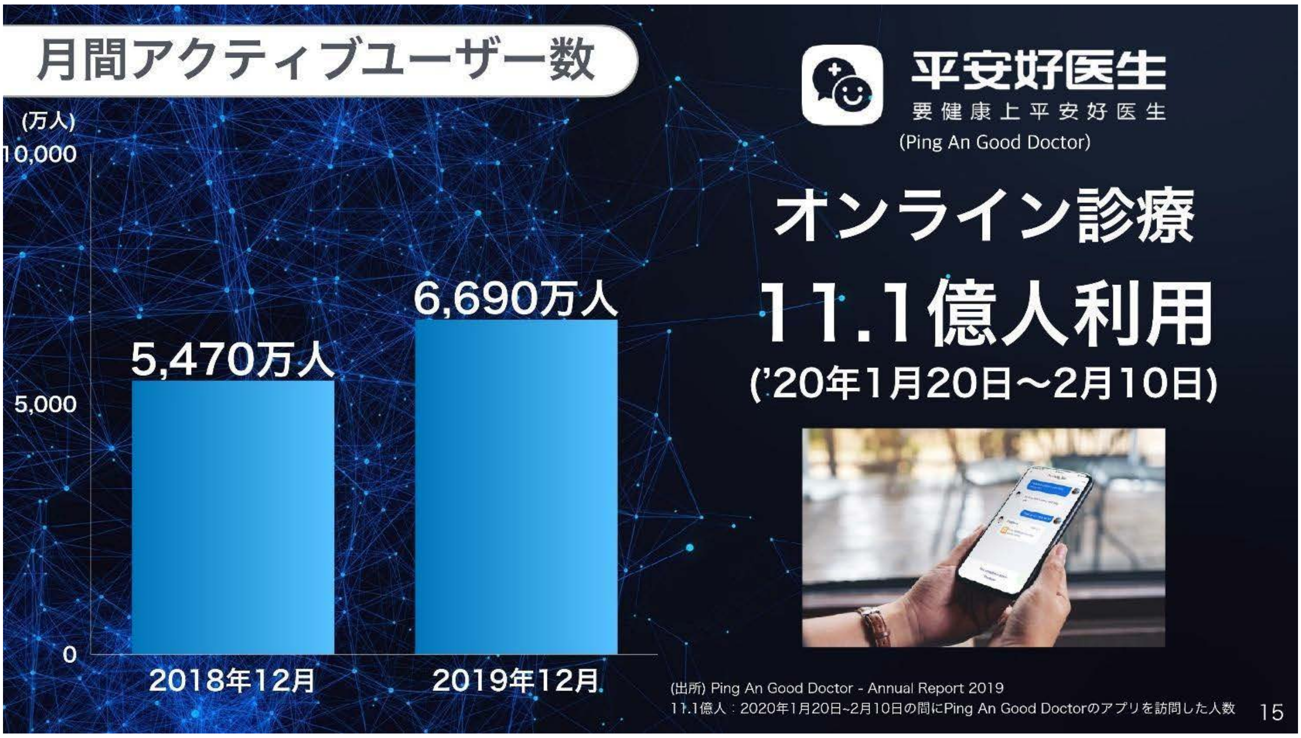
起きてはならない問題事、災難ですが、人類は常に知恵を働かせ、最大限の努力をし、問題を解決しようと努力するわけです。

具体的にわれわれの会社で見てみたいと思いますが、外食や小売が大いに妨げられました。その解決策としてネット通販、アリババ、Coupang、Tokopedia などいろいろありますが、これらのわれわれのファミリーカンパニーはこのネット通販を今、一気に伸ばしているところです。



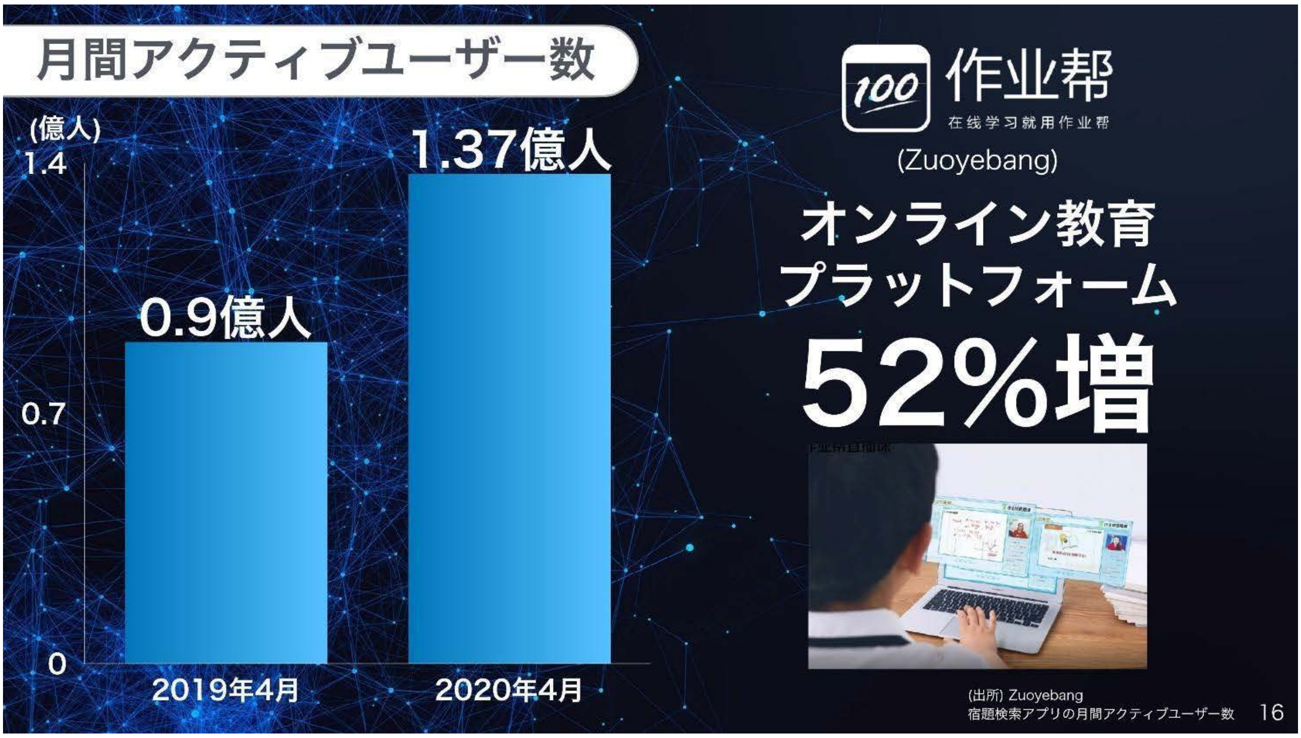
食べ物のデリバリーでもそうです。Uber Eats、これは公開会社ですから数字を発表していますが、前年対比 52%伸びています。また、ファミリーカンパニーには DoorDash、Coupang、Grab

などがあり、これらの会社が世界のそれぞれの地域でフードデリバリーサービスを一気に伸ばしています。人々の問題に対してなんとか解決しようと、それらのサービスを人々に提供しています。

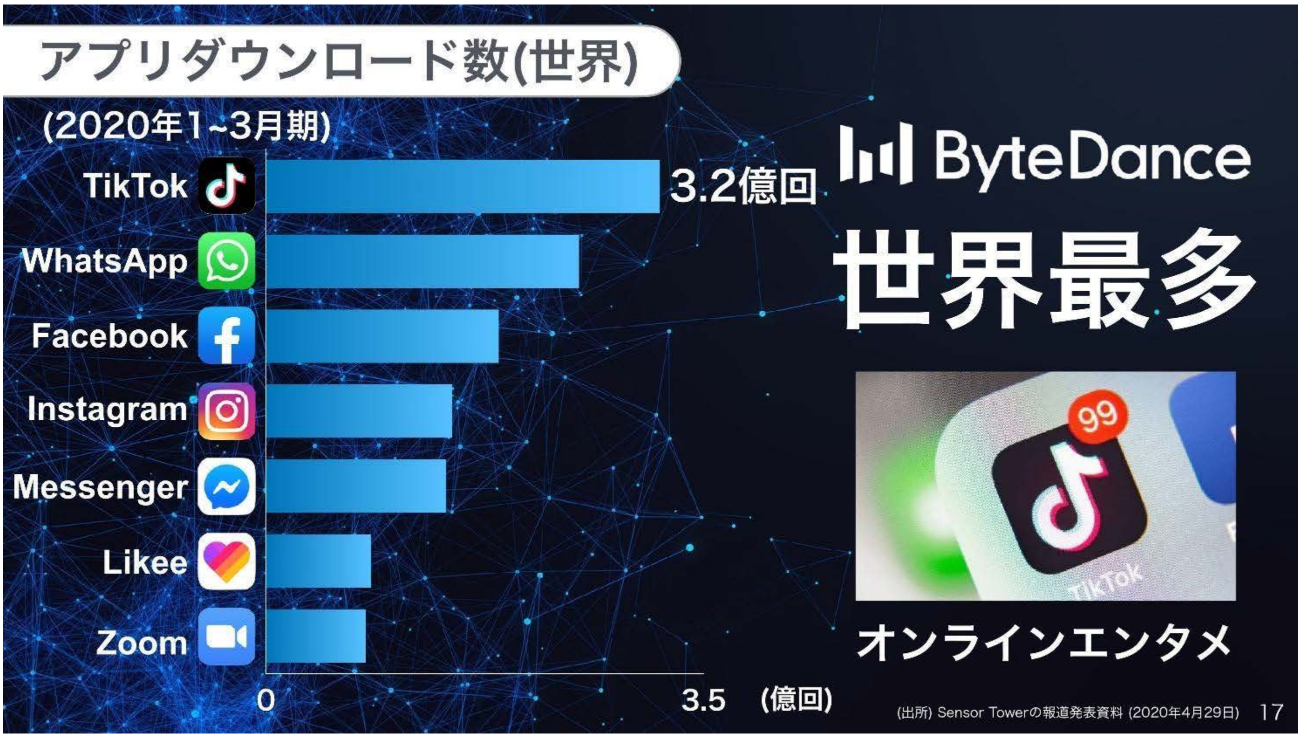


オンライン診療でも、ファミリーカンパニーの Ping An Good Doctor の数字を見ていただきたいのですが、去年の 12 月とおととしの 12 月の段階では、月間アクティブユーザーが 5,000 万人、6,000 万人という状況でした。

しかし、今年の 1 月 20 日から 2 月 10 日のたった 3 週間で、のべ 11 億人もの利用者が訪問しています。去年、おととしの数字はユニークユーザーで、今年の数字はのべ人数なので、単純比較するわけにはいきませんが、圧倒的な数の人々がオンラインで診療してほしいと思い、今回のコロナについても、多くの診療がされました。

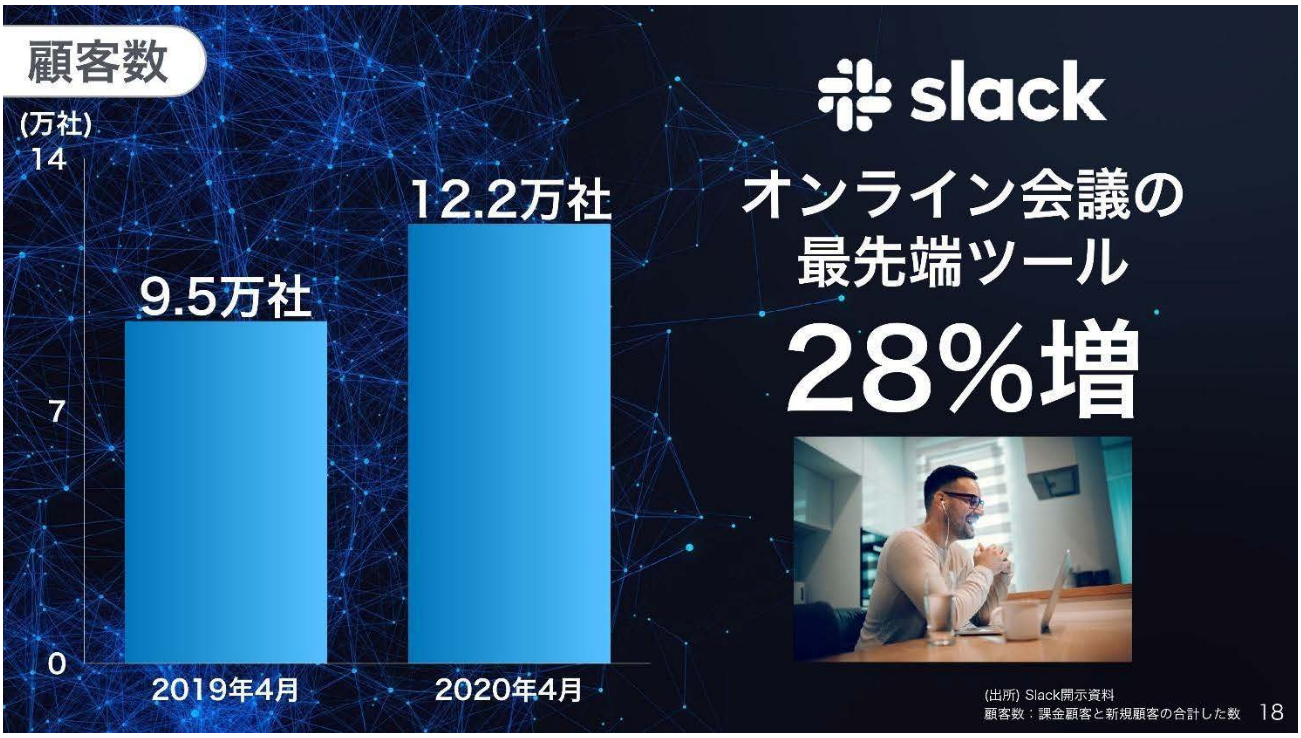


教育においても学校が世界中で閉鎖される中、ファミリーカンパニーの Zuoyebang は中国でなんと月間アクティブユーザー数が前年対比 52%増の 1.3 億人となり、多くの学生にオンライン教育を提供しています。



エンターテインメントでもファミリーカンパニーの ByteDance は、今年の 1 月から 3 月の 3 カ月間でのダウンロード数が 3.2 億回と、他のエンターテインメント会社との比較ではなくて、例えば

WhatsApp、Facebook、Instagram のように、世界的に有名なコミュニケーションツールを含む全てのアプリケーションを上回るダウンロード数となりました。これはわれわれのファミリーカンパニーが世界一ダウンロードされているという状況です。



オンラインの会議の最先端ツールとしてもわれわれのファミリーカンパニーSlack の顧客数が 28%増で、多くの人々のリモートワークをサポートするツールとして伸びています。

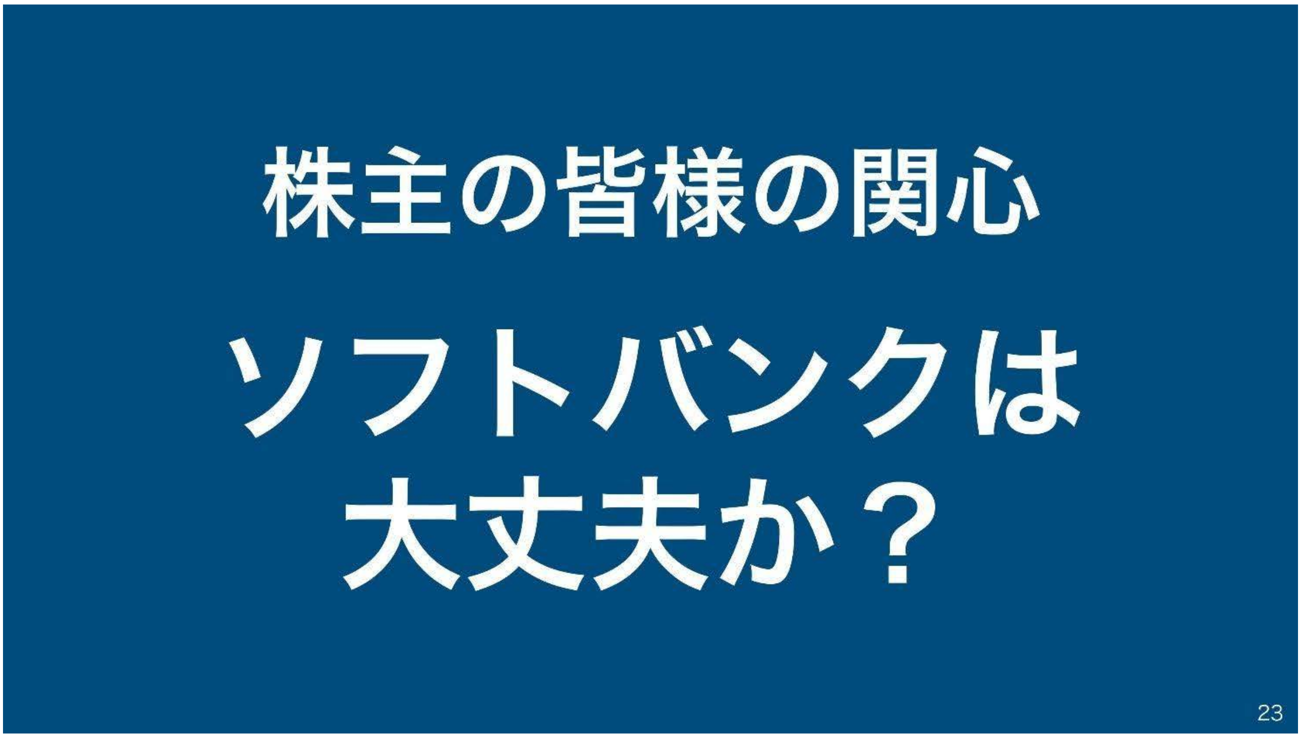
また、これは直接、今回の新型コロナに対する問題解決の一つですが、治療薬、そしてワクチンの開発をこれもまたわれわれのファミリーカンパニー、Vir Biotechnology （以下、「Vir」）が行っています。これはすごい会社で、数億回のコンビネーションを行い、その中から数千個の治療用抗体を特定し、その中でも最も有力な 2 個の抗体を特定しました。

その 2 個で、今年の夏に人間に対する臨床試験が始められることになりました。私は非常に期待していまして、このようにワクチンやアンチボディの治療薬ができると、世界中の人々の問題である今回の新型コロナに対する問題解決に貢献できるのではないかと期待しています。

また、ファミリーカンパニーの Roivant Sciences では、同じように AI を活用して、今回の新型コロナによる呼吸困難症状向けの治療薬を開発しています。

このように人類が抱えた大きな問題事に対する解決策として、デジタルシフトが新しい日常として大いに進展するのではないかと思っています。決してこれは人々の災難を喜んでいるわけではなくて、人々の困難に対して解決を図ろうという、われわれのファミリーカンパニーの奮闘、努力です。

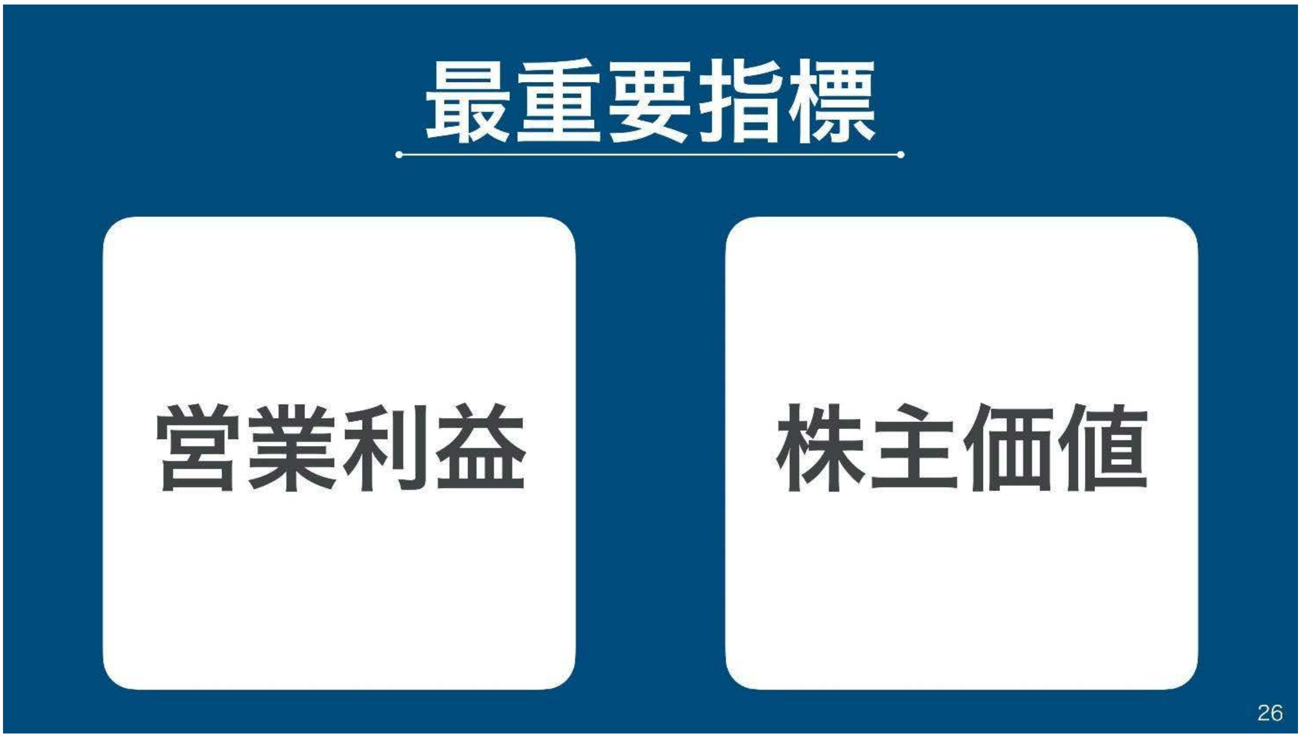
われわれは創業以来、ずっとこのデジタルシフトを一貫して牽引してきました。これからも力を抜かずに、まっしぐらに、このこと一つに特化してやっていきたいと思っています。



しかし、株主の皆さまの関心として、特に最近ソフトバンクは大丈夫かという心配の声もたくさんいただいています。史上最大の赤字を出したわけですから、これはごもっともな心配事だと思います。

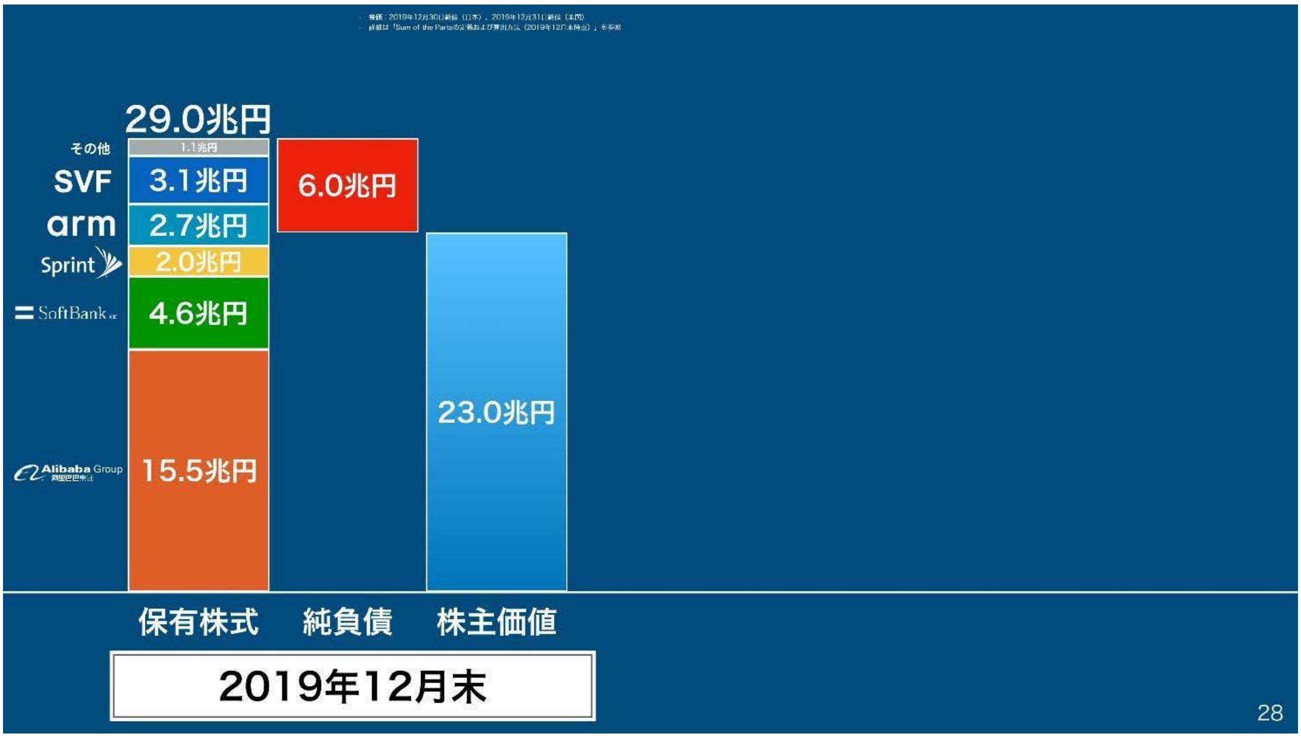
われわれ、ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）は、戦略的持株会社になりました。事業会社ではありません。われわれの傘下には、優れた事業会社、例えば国内の通信を担っているSBKK、アーム、SVF、合併が完了したTモバイルがあります。優れた事業会社がたくさんありますが、われわれSBGは、これらの事業会社を戦略的に保有している持株会社です。

もちろんこれらの大きな会社だけではなくて、SVFを通じて、最近はユニコーンに対する戦略的持株会社でもあります。



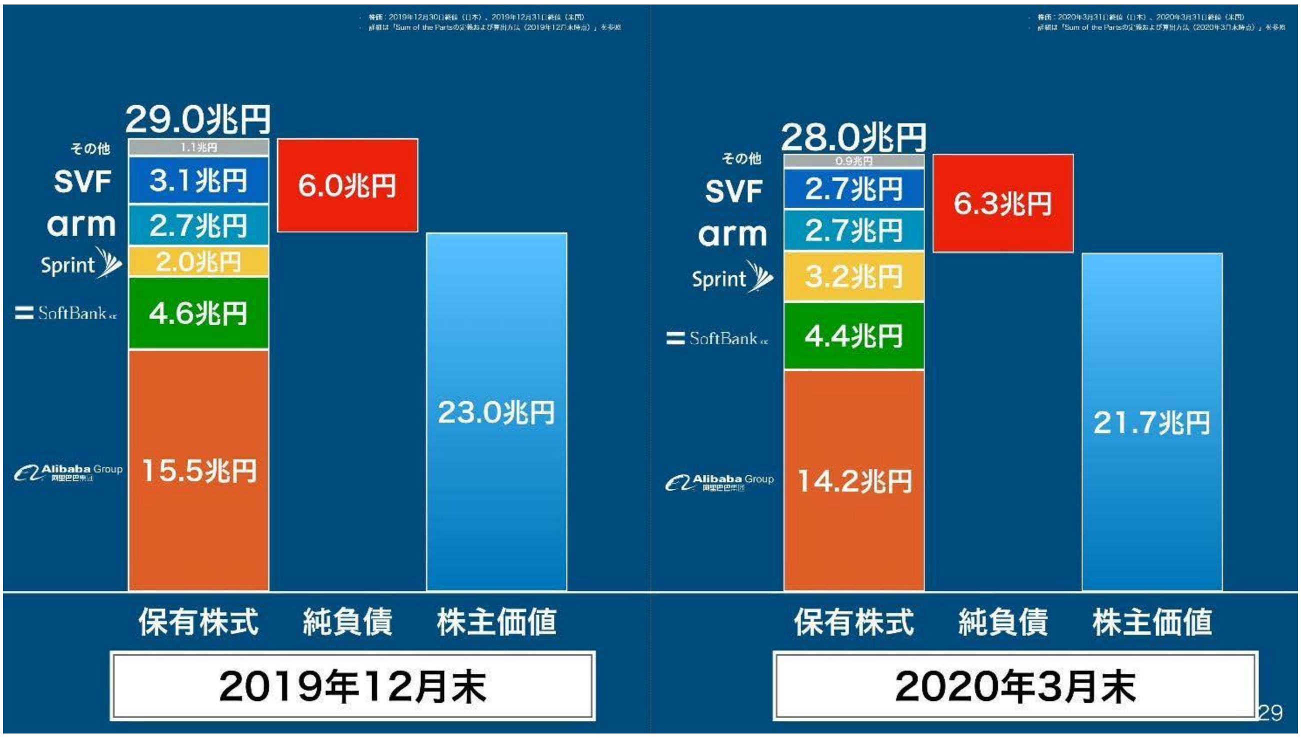
このような形態になったわれわれSBGにとって、二つの指標があります。一つは営業利益、もう一つは株主価値です。

営業利益が、新たに変わったSBGにとって大切な指標かという問いに対して、私の考えを申し上げれば違うということです。これは最近繰り返し申し上げてきていることなので、しつこいぐらい私の考えは伝わっているのではないかと思いますが、改めて直近の株主価値が、どのように推移しているかを申し上げたいと思います。



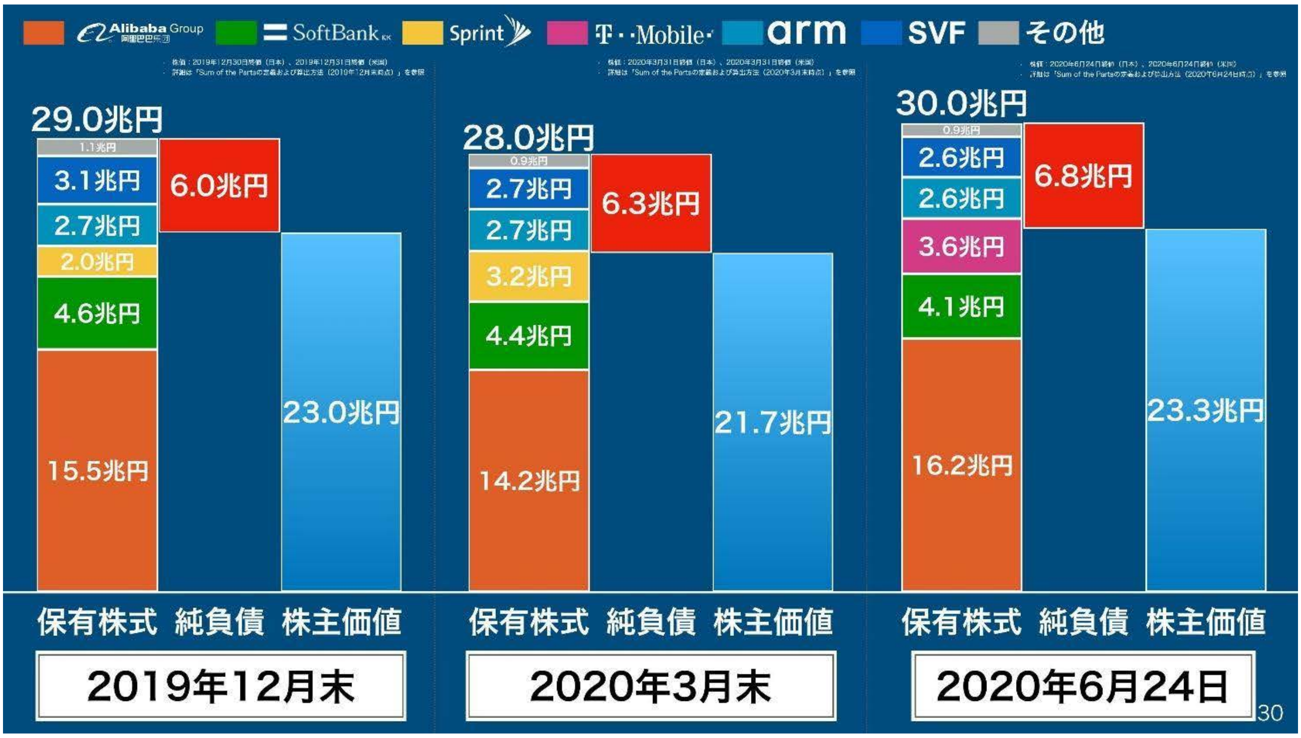
コロナ前の去年 12 月末われわれが戦略的持株会社として保有している株式の合計が 29 兆円でした。われわれには、これを持つことに対して軍資金として負債があります。負債から現金を差し引いた純負債が 6 兆円でした。

戦略的持株会社として保有している株の価値について、今日参加いただいています株主の皆さまも SBG 株を保有しているわけですが、仮に皆さまがその株を買うための借入金をしているとすれば、株の価値の合計から借入を差し引いたものが、皆さまの株に対する直接的純財産ということになります。それが株主価値です。29-6=23 で、23 兆円の株主価値です。われわれの時価総額は、日によって違いますが現在約 11 兆円ぐらいなので、実は皆さまは SBG 株を持つことによって、1 株当たりの株価の倍ぐらいの価値の財産を持っていることになります。



これが過去最大の赤字を出した 3 月末の決算ではどうなったかというと、最大の赤字といっても、営業利益の赤字、あるいは純利益の赤字ということになります。営業利益が過去最大の赤字であるかどうかは、私にとっては大した問題ではなくて、23 兆円あった株主価値が 21.7 兆円に減ったことがより大きな問題です。保有していた株の価値が、29 兆円が 28 兆円に減ったことです。

保有株式の価値が 1 兆円減って 28 兆円に、純負債は 3,000 億円増えて 6.3 兆円になった。結果、株主の皆さまが保有している財産価値は 21.7 兆円、つまり 1.3 兆円減った、これが重要な数字です。減ったことはいけないことなので、この数字に私は特に関心を持って見ているわけです。



コロナ禍で、SBG の株価も半減し、皆さまには大変なご心配、ご迷惑をおかけしたわけですが、今日現在は保有している株の価値はちょうど 30 兆円になりました。29 兆円だったものが 28 兆円になり、30 兆円に戻ったということです。つまり、コロナがある前の状態よりも、むしろ高くなったわけです。純負債は若干増えているので、結果、株主価値は 23.3 兆円になった。

23.3 兆円は、コロナ前の 23 兆円よりもむしろ増えている状況です。また、コロナの真っ最中の 3 月末の状況に比べると、1.6 兆円ぐらい増えたことになるわけです。そういう意味で、だいぶ改善してきたと思うわけですが、途中のプロセスの中で SBG の株価が半減することもあったわけなので、そのときには市場は過剰反応し、やや下にオーバーシュートしたのではないかと個人的には思っている状況です。

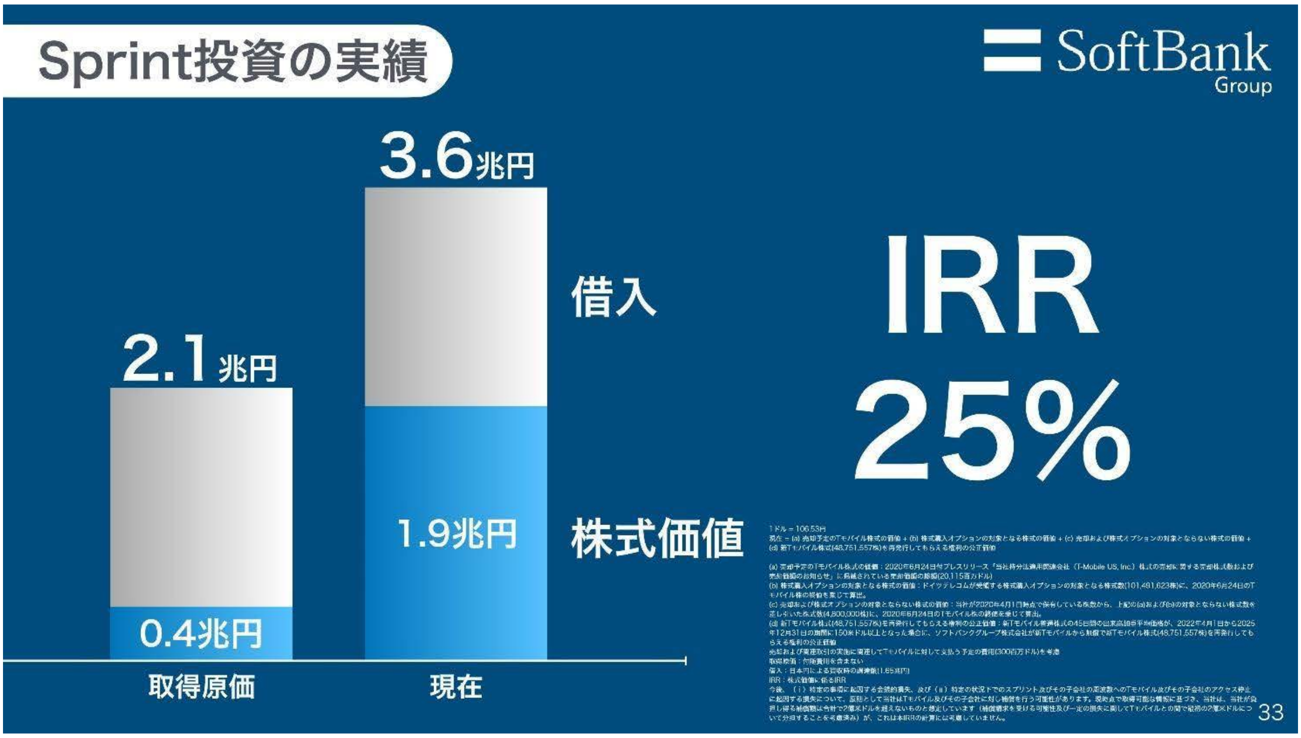
ということで、少し改善してきたということを申し上げたいと思います。

もう一つ、おととい発表した大きな出来事があります。これは今まで「アメリカに進出するのだ」と勢い込んでいったわけですが、スプリントの買収が、膨れた負債、大きな赤字とSBGの財務懸念として大きく足を引っ張り、皆さまに大変大きな心配、ご迷惑をおかけしたわけです。

もうSBGは駄目だといろいろな人にもご指摘を受けたわけですが、今回合併が成立し、われわれが持っている3億株のうちの最大で約2億株を売却することになりました。

そこで過去を総括して、投資に対する成績を振り返って見てみたいと思います。われわれは 2.1 兆円で買収しました。そのときに 2.1 兆円の現金を持っていたわけではなくて、持っていた現金は 0.4 兆円でした。残りの差額はやや無理をして借入をして、背伸びをして買ったということです。

この背伸びの借入の部分が、特に多くの皆さまからご心配いただきました。いつも SBG はかつかつの状況で無理をして、背伸びをして事業を伸ばそうとしている、ばくち打ちと心配をされているわけです。

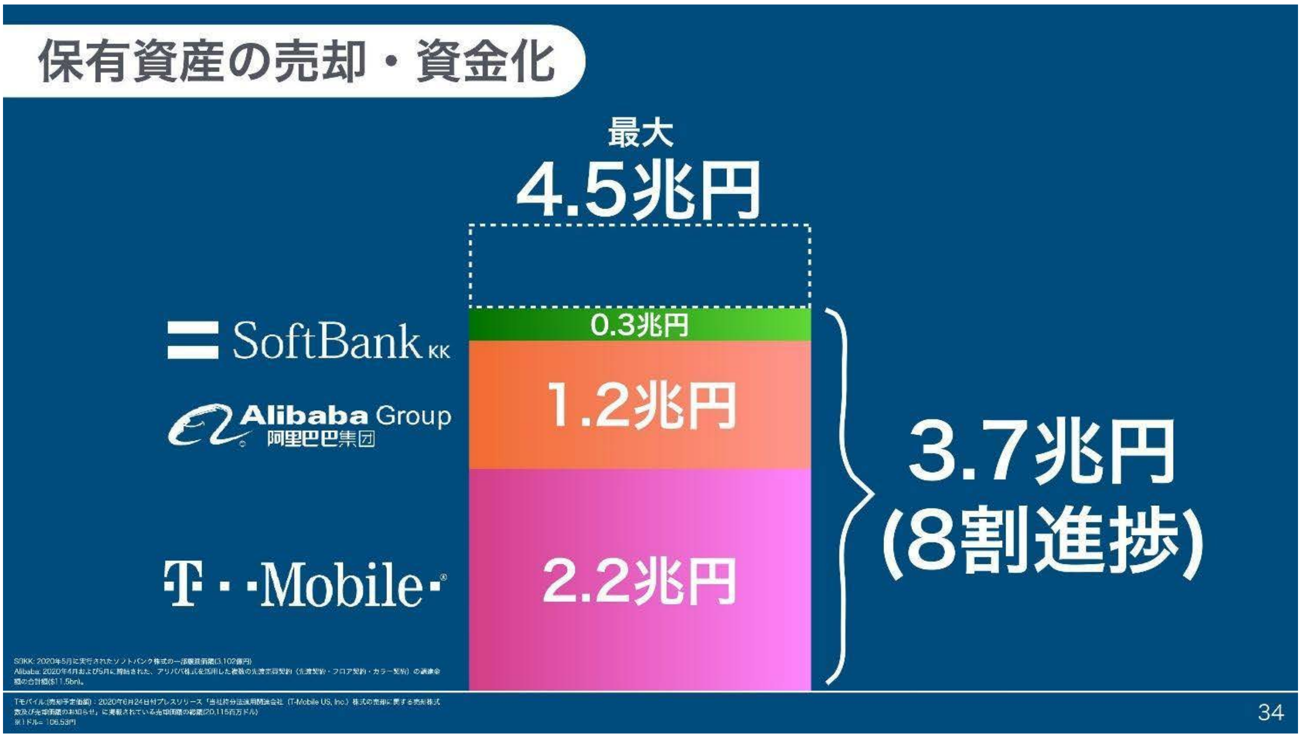


結果どうなったかというと、3.6 兆円の価値で今回の売却がほぼ終わった。ほぼ終わったというのは、まだ 3 分の 1 売り残している株式がありますので、これはまだわれわれが売りたくないと思っている部分ですし、ドイツテレコムとの契約上も保有を継続すべきという合意になっているところです。

借入の額はほぼ同じということで、われわれの投下資本の 0.4 兆円が 1.9 兆円になった。この約 7 年間で 5 倍近いリターンを得たということです。ですから、4,000 億円が 2 兆円弱になったということですね。IRR にすると、年率 25%の利回りで成長し、価値を増大させることができたことになるわけです。

この 3.6 兆円は最終数字ではなく、合併後の T モバイルは成長し続けており、これからもっともっと価値が増えると思っていますので、最終的にはこれが 3.6 兆円ではなくて、もっと大きな数字になると内部では見込んでいます。ですから、最終的には 0.4 兆円が 5 倍弱ではなく、6 倍、7 倍、8 倍ともっと大きくリターンを稼ぐのではないかと私は思っています。

これは確定ではなく、単なる私の願望的見込みと捉えていただきたいと思いますが、少なくともスプリントで大失敗したと、これまで何度も何度もご指摘をいただいていたわけですが、最終的にふたを開けてみたら無事成長させて、価値を得ることができたことになっているわけです。

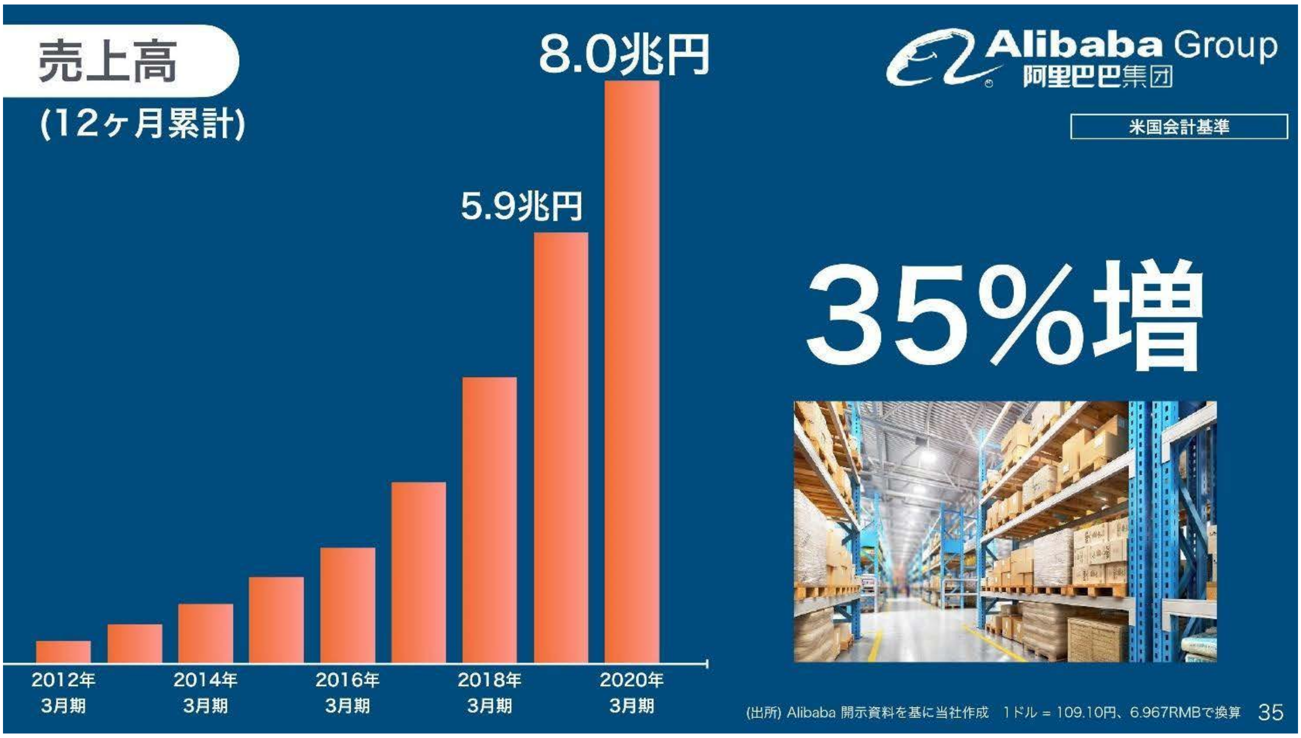


また、3 月末にこのコロナの真っ只中ということで、より安全運転をしようと 4.5 兆円の資金化を行う方針を発表したわけですが、その時点では本当にそんなに大きなお金を調達、資金化できるのかというご指摘をたくさんいただきました。

われわれ、SBG が 30 兆円近い財産を持っているといっても、いざ売ろうとなったら暴落する、売れっこない、売りたいはずがない、売ったら架空の含み益、いざ売ろうと思ったら価値が崩壊して、絵に描いた餅だと今まで何度も言われてきたわけですが、本当に絵に描いた餅だったのでしょうか。現金にしたらそれ以上何を言いたいのだと、私はご批判いただいた方には言い返したい。たまには言い返したいですよね。少しお金が手に入ったときぐらいは言わせてください、というのが、私の正直な気持ちです。

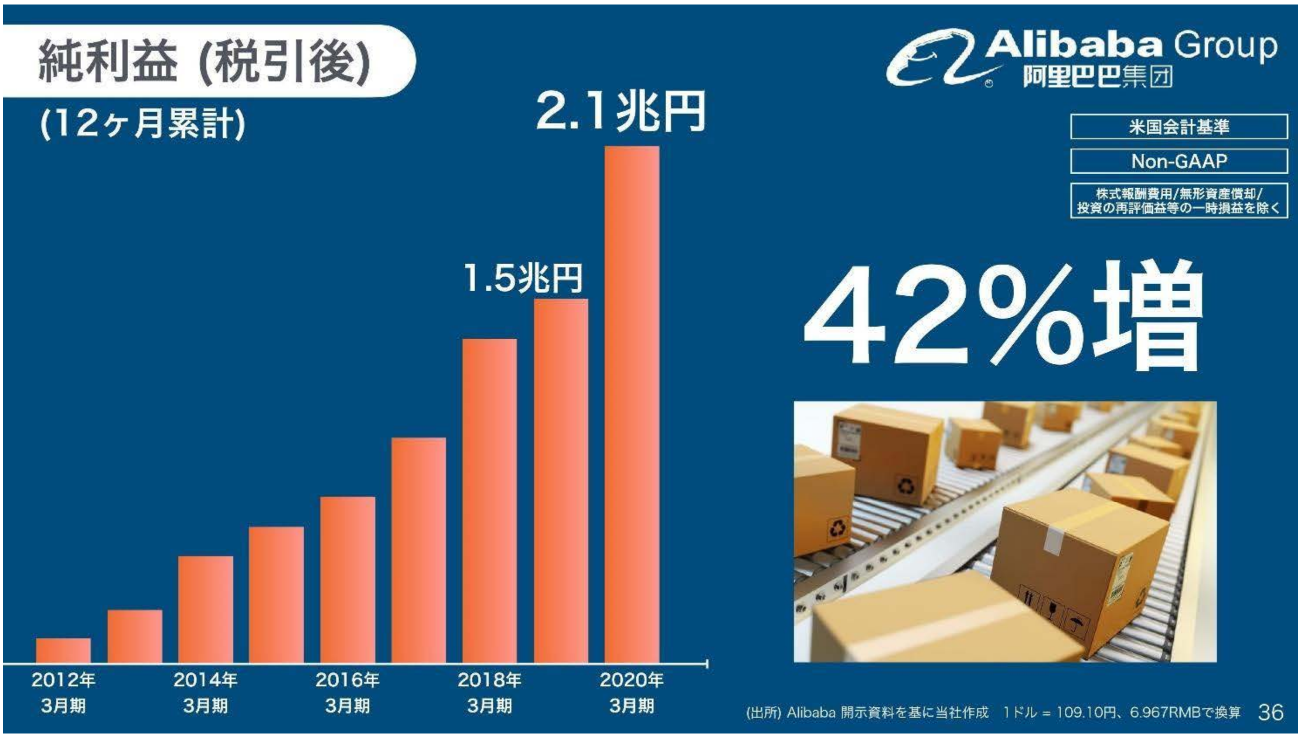
目標として掲げた 4.5 兆円の資金化に対しては、8 割ぐらいの達成をこの 3 カ月でやり遂げたということです。あと 2 割ぐらいですから、これはすでに私の腹の中では目途が立っている状況です。

また、T モバイル株の資金化については、追加の資金がすでに予定されているものがありますので、今回発表済みのものの中で、追加で入ってくる部分もあります。ということで、これは無事に進捗中です。



さて、われわれが戦略的持株会社として、保有している株の価値の中で最も大きなものがアリババです。戦略的持株会社、投資会社であれば、持っている財産の株は含み益や、紙の上での計算上の価値、上がったり下がったり、バーチャルなものだとよくおっしゃる方がいるのですが、本当にそうでしょうか。

株は上がったり下がったりしますが、何万人、何十万人の方々が実際に現金をかけて、その会社の価値を評価しているわけで、大事なのはその会社が実際に経営している事業の価値です。これがアリババにおいて二次曲線で、着実に売上が伸びているということです。



売上だけではありません。純利益も着実に伸びている。税引後の純利益で 2 兆円もの規模になって、しかもこれが 42%ものペースでさらに伸び続けている。これが重大な事実であろうと思います。

先ほどグラフにあったように、E コマースはむしろ今回のコロナのような状況の中で、その重要性がさらに認識され、初めて E コマースで物を買った人もたくさん生まれています。一度それを体験するとなかなか便利じゃないかと思われた方もたくさんいたのではないかと思います。これが新しい日常として、人々の生活の中に定着していく。

安全な水、電気、自動車。これまで困難のたびに新しい日常が生まれたように、またここで新しい日常として、人々の買い物に対するスタイルが変わるということだと思います。

これらの進化を支えているベースの中に、アームのチップがあります。世界中の人々のスマホのほぼ全てがアームのチップによって成り立っていると言っていいでしょう。われわれの戦略的中核の会社の一つです。完璧な二次曲線で出荷数が伸びているのが、このグラフでもお分かりいただけると思います。

景気が良いときも悪いときも、金利が上がろうが下がろうが、雇用率が上がろうが下がろうが、全て関係なしにアームのチップは、完璧なる二次曲線でその出荷数が伸びていることが、これでお分かりいただけると思います。

アームを使った製品は、コンピュータ、スマホに代表されるさまざまな携帯用端末、ゲーム機、家電製品など、いっぱいあるわけですが、特に最近伸び始めたのがサーバーです。クラウドで世界一の会社は Amazon の AWS ですが、Amazon が使っている CPU、つまりコンピュータの一番中心のエンジンがついにアームに変わりました。

アームのサーバーにおけるマーケットシェアは、去年は 1%、SBG が買収した直後はほぼ 0%でした。0%が去年 1%になり、今年 4%になりました。4%が来年、再来年、一気に加速して伸びると私は確信しています。なぜならば、その分野の世界最大の会社である、Amazon の AWS がアームに切り替わったため。

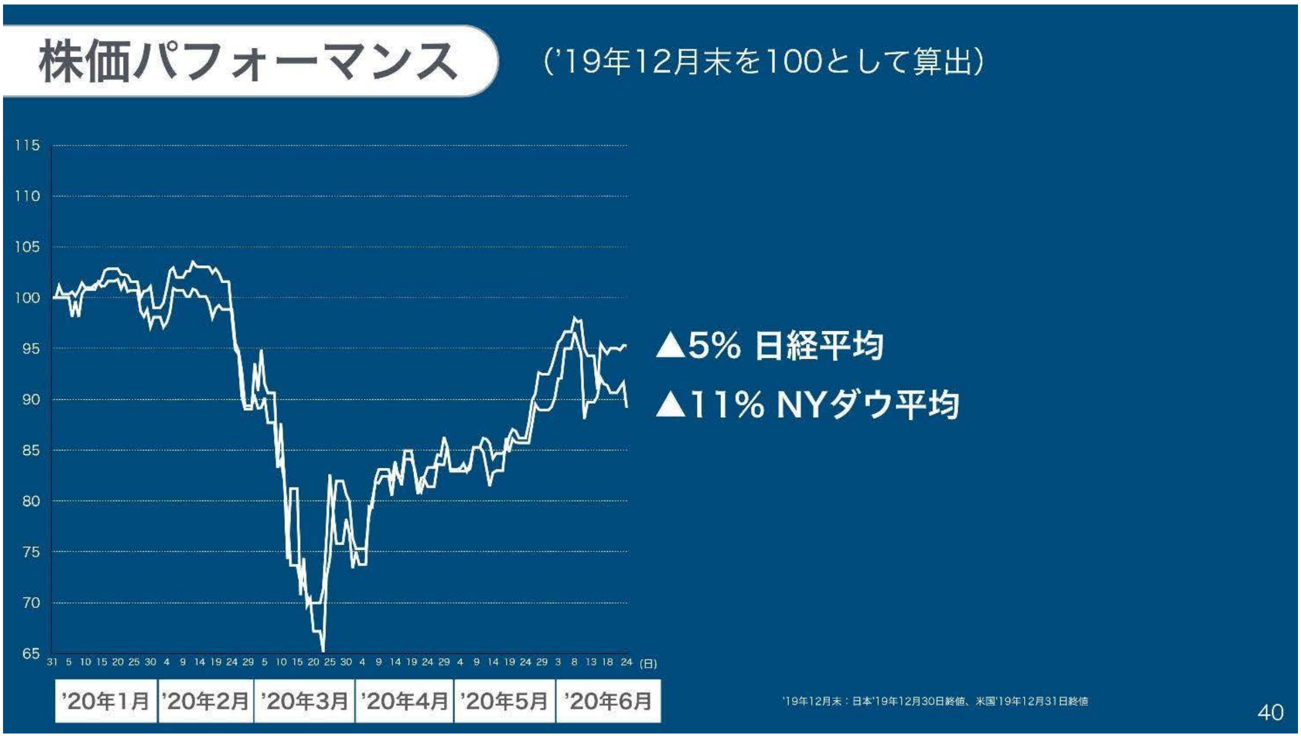
競合他社が Amazon と戦うにはアームにせざるを得ない、アームにしないと消費電力がものすごくかかる、コストがかかって、処理速度が Amazon に敵わないということになるので、Amazon に対抗するためには他の会社もほとんど皆、アームに変えざるを得ないということで、大いに確信しているところです。

また、これもおととい、日本のスーパーコンピュータ、富岳が世界ナンバーワンになったことが発表されました。この富岳はこれまでの日本のスーパーコンピュータと違って、特殊な CPU の設計ではなく、標準的 CPU を使い、ソフトウエアも特殊なものではなく、世界の標準ソフトウエアがほぼそのまま使える。

したがって、ただスピードを競うのではなくて、実際の科学的利用、あるいは商業的利用に耐え得る設計になっているのが、今回の富岳の最大の特徴だと開発者の皆さまがおっしゃっています。

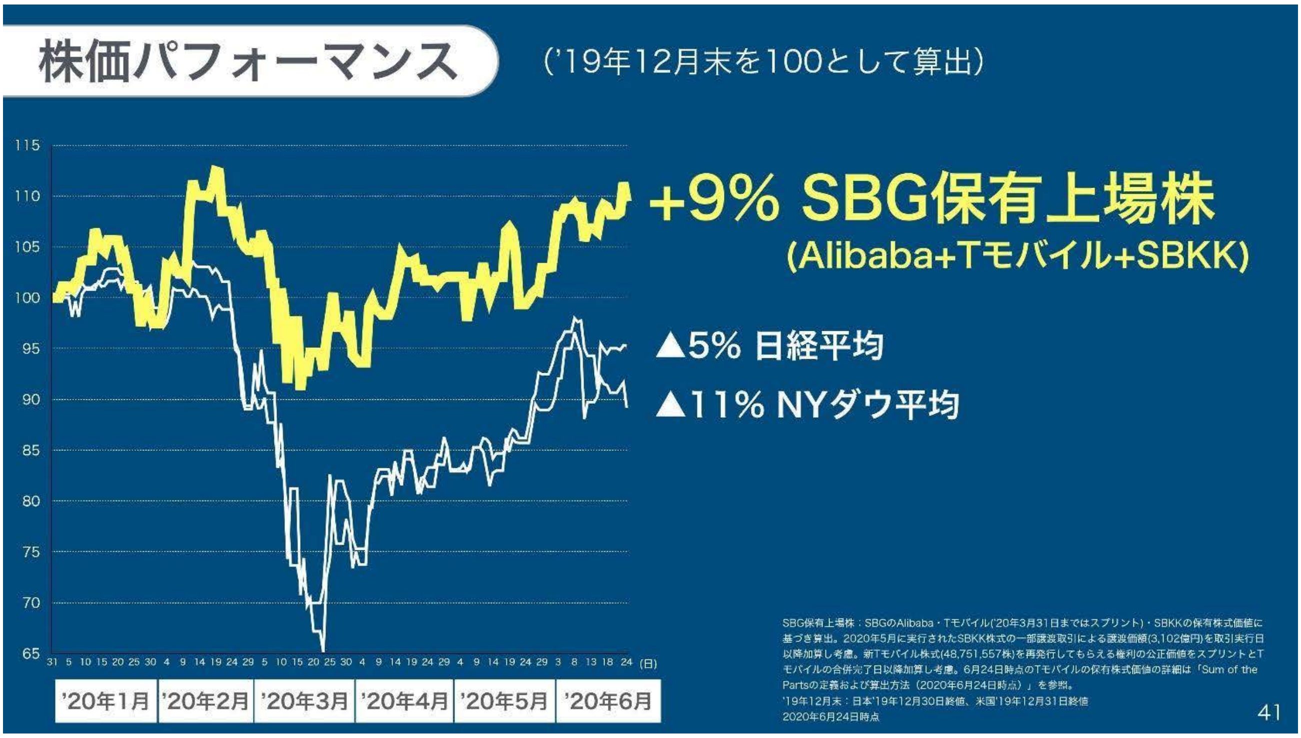
処理速度で 1 番になったわけですが、一番大切なのは、富岳は広く多くのアプリケーションにソフトが使え、ソフトをつくりやすいことで、しかも、消費電力が非常に少なくて済むことと言われています。

なぜそうなったのかは、アームだからです。初めて日本のスーパーコンピュータが、超並列で、16 万個もの CPU を同時稼働する。確認していませんが、16 万個おそらくほぼ全部アーム。これを超並列で使うことによって、世界一の最高速度、しかも実用に使えるかたちでなった。私は大変喜んでいる状況です。



さて、今回のコロナ禍で世界の株式市場も大きな変動に見舞われました。大変なショックだったわけです。前回の決算発表でも、私は神妙な顔で報告しましたが、業績に自信がなくなって神妙な顔をしていたのではなく、世界の多くの人々が苦しんでいるということで、それを嘆き悲しんでいた。問題解決に協力できていない自分に対して、腹立たしかった状況だったのですが、あまり悲しそうな顔ばかりしていると、孫さん大丈夫かと、この間もいっぱい聞かれましたので、今日はもう少し、われわれの業績や会社の将来性を中心にお話ししています。

先ほどの Vir のように、ワクチンの開発、抗体の開発が進み出したことも、私の気持ちを少し明るくし始めている部分でもあります。業績については、実は変わらぬ自信を持っています。むしろ、自信が深まったと言っていいかもしれません。

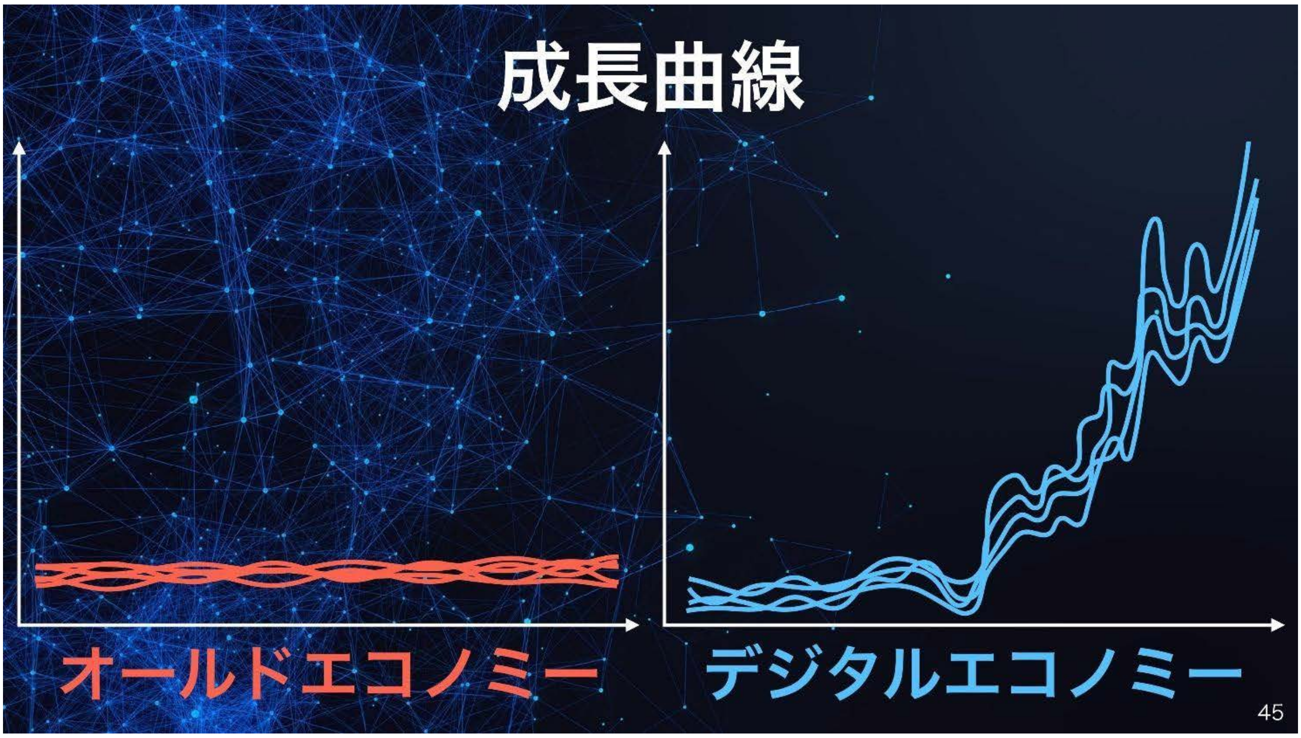


今回のコロナの中でわれわれが戦略的持株会社ということを繰り返し申し上げていますが、われわれが保有している株式の大半はアリババと T モバイルと SBKK です。

この三つの株を加重平均して、持分の価値に応じて指数化すると、コロナ前の 12 月末からスタートし、100 を皮切りにして、同じスタートラインから比較すると、日経平均や NY ダウが大きく下がったのに対して、われわれ SBG が保有する上場株式は実はあまり下がっていなかった。むしろ、最近は上がっていることがお分かりいただけると思います。

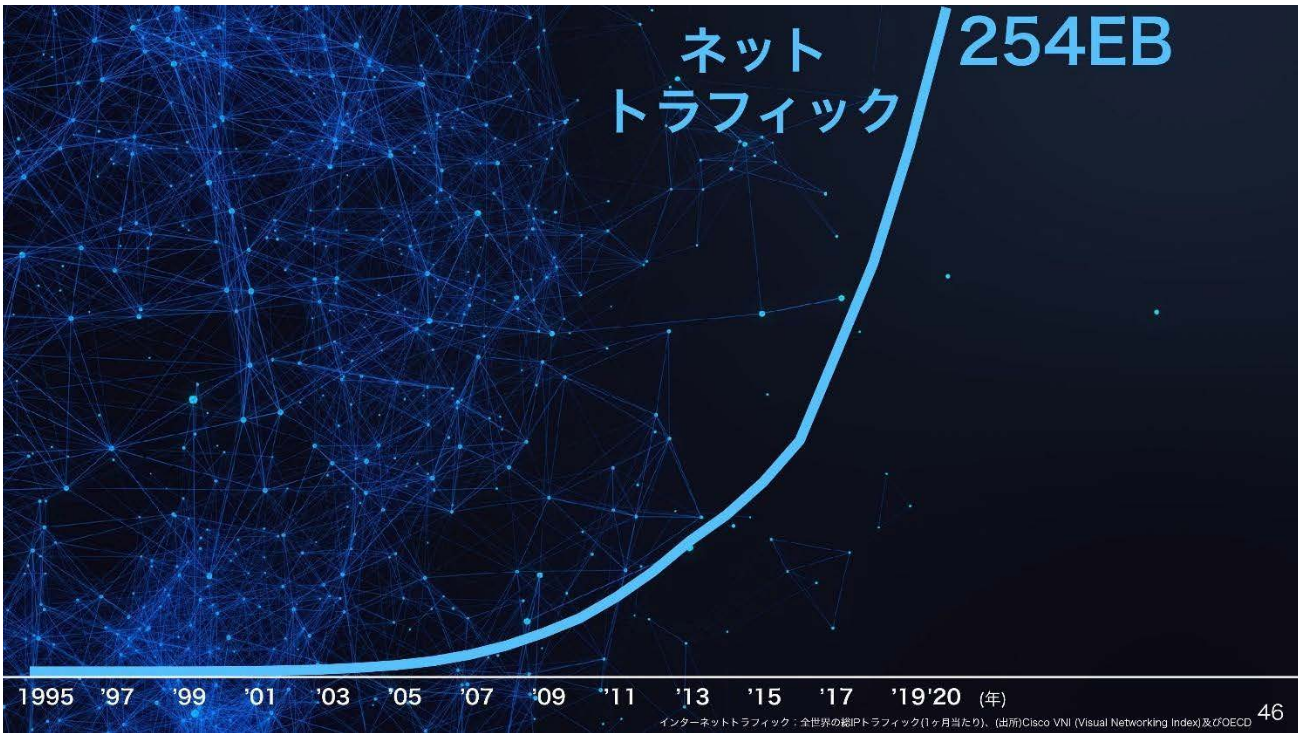
つまり、デジタル情報革命は何が起きても変わらずに伸びていることを、僕はその背景に物語っているのではないかと思うわけです。

大きく俯瞰してみましょう。オールドエコノミーがあります。会社とか業界を言うと後で怒られそうですので、一般論としてのオールドエコノミーと申し上げたいと思います。それに対して、われわれはデジタルニューエコノミーというところに特化しているわけで。

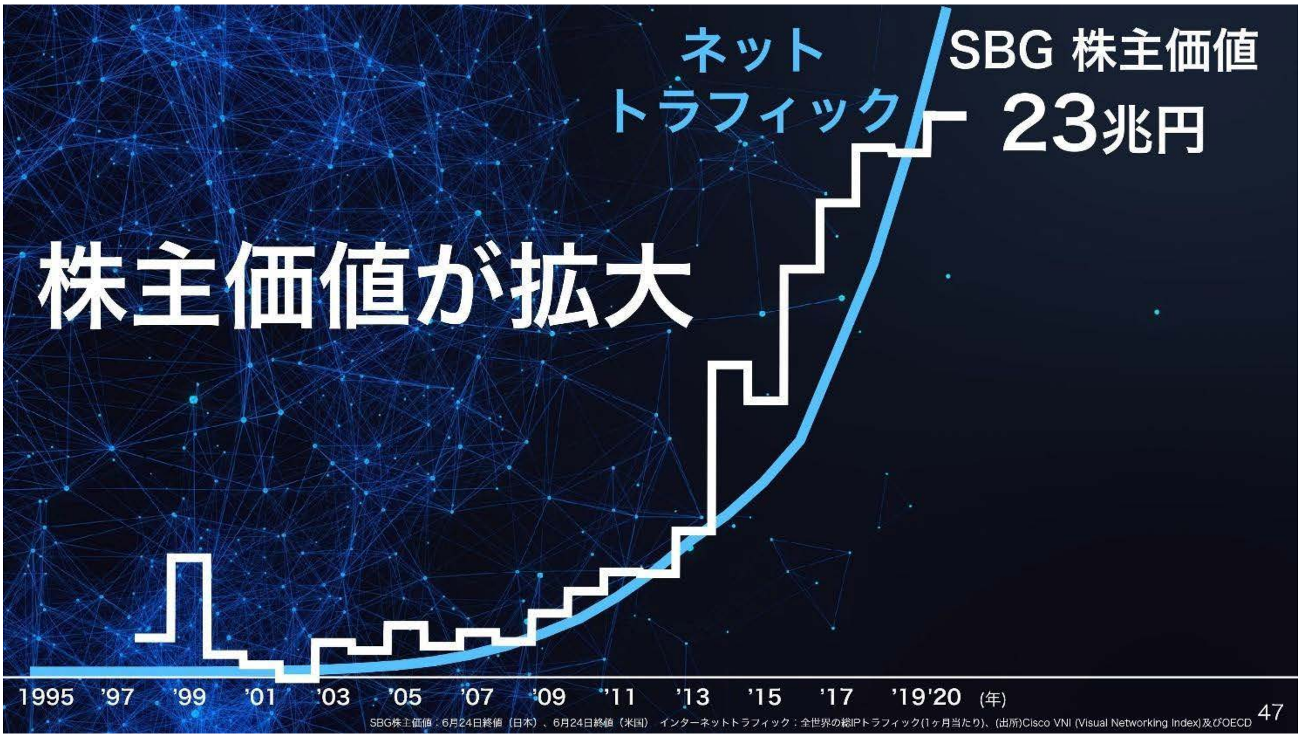


みんな大切な業界なのですが、それぞれの業界の価値、企業価値の時価総額合計を出すと、このようにオールドエコノミーは、フラットだけど安定している。安定しているけれどもフラットという

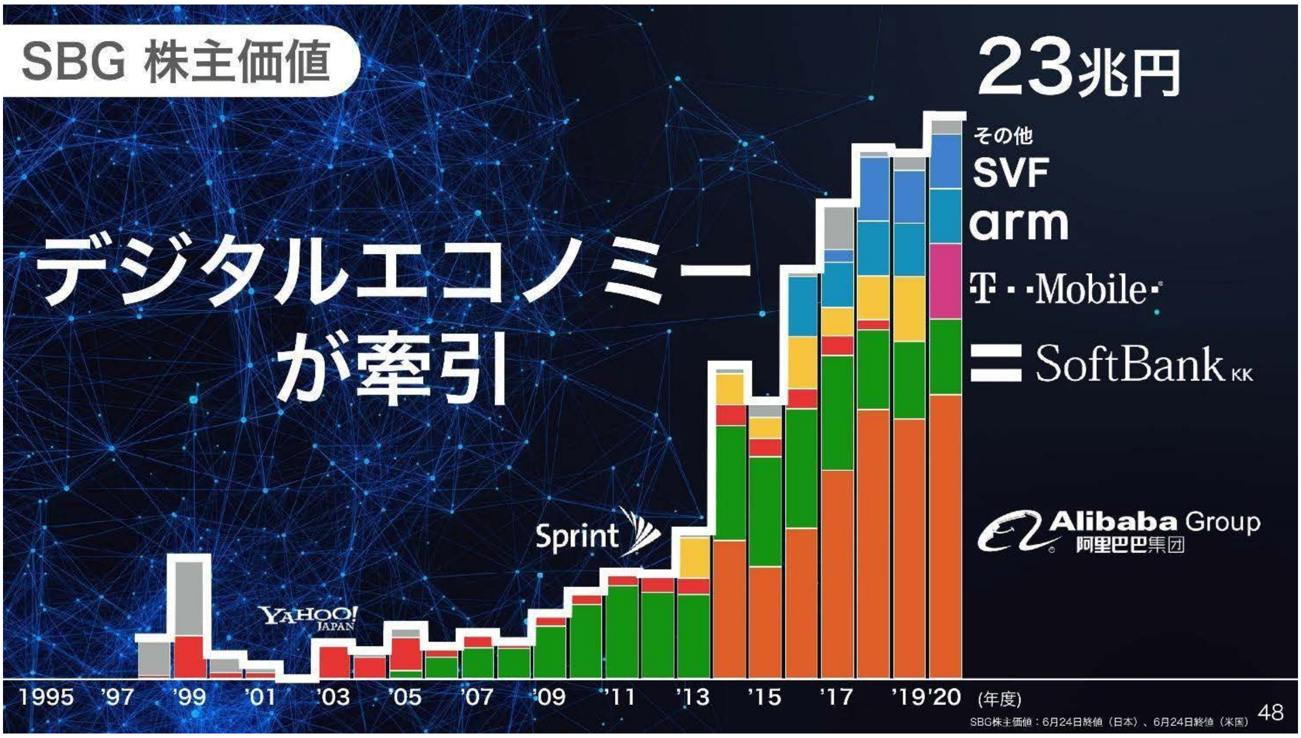
ことです。それに対して、デジタルエコノミーは上下に激しく動いています。これはボラティリティが高く、上下運動が激しく、大きな波で動いています。しかし、大きく俯瞰してみると、二次曲線で伸びていると言えるのではないかと思います。



この二次曲線が何に一番似ているかというと、インターネットのトラフィックに一番似ている。自動車業界の企業価値が自動車の数にほぼ比例するということであれば、デジタルエコノミーの会社の企業価値はネットトラフィックのカーブに似ているということではないかと、私は思います。



ここに、一つ線を重ねてみたいと思います。SBG は戦略的持株会社。持っている株の価値から純負債を差し引いたものが株主価値。われわれが持っている株主価値は、このネットトラフィックのカーブに似たかたちで、二次曲線で伸びているということです。



これを今日は初めて申し上げたいと思いますが、内訳がこうなっています。1995 年からずっと大きく俯瞰してみていただきたいと思います。ちょうど 99 年、2000 年のところでネットバブルがあ

りました。そのとき SBG の時価総額は一時 20 兆円ぐらいまでいったわけですが、保有していたわれわれの株主価値を大きく上回っていたということです。

でも、それは一時的な人々の過熱だったかもしれません。その後にそれをはるかに上回ってわれわれの保有株式価値が着実に増えていった。緑が SBKK、途中からピンクになっていますが黄色が T モバイルに生まれ変わったスプリントです。そして、アーム、その上に SVF があります。一番下に大きくあるオレンジ、これがアリババです。

アリババは上場してからその価値が顕在化したわけですが、その直前までは、真っ赤な赤字だったということです。赤字のアリババが上場直後から急激に価値を伸ばし、われわれの株主価値でも圧倒的ポジションを占めるに至ったということです。

最後にまとめたいと思いますが、ちょうど 10 年前、この株主総会で新 30 年ビジョンというものを掲げました。その時点でちょうど創業から 30 年経ったので、創業するときに私が 30 年ビジョンを、みかん箱の上で 2 人の社員に申し上げました。2 人とも 1 週間後に辞めましたけれども、そこから 30 年経ったので、新 30 年ビジョンというものを 2010 年、この株主総会の場で発表しました。

そこからちょうど 10 年経ちましたので、改めて少しだけ振り返ってみたいと思います。ちょうど今から数えて 10 年前のあのときから見て、30 年以内には脳型コンピュータが実現する、AI 中心のコンピューティングの世界が 30 年以内に来ることを 2010 年に申し上げました。

AI、AI と毎日語られるようになり、その方向にどんどんなってきたことを改めて今日、振り返ってみたいと思います。

また、あの時点で DNA 治療・人工臓器の一般化が 30 年以内に起こって、あの時点から数えて 300 年後、今から数えても約 300 年後には、人々の平均寿命は 200 歳ぐらいになるのではないかということを申し上げました。多くの人は、えっという感じでしたが、最近だいぶ DNA 治療なども AI を使ったさまざまな分析、そして DNA そのもののカッターナイフなど、いろいろなものまで最近は開発が進んでいる状況です。

また、知的なロボットとの共存が、30 年以内にどんどん起きるということを申し上げました。その時点では、ソフトバンクグループではロボットへの取り組みはゼロでした。しかし、たった 10 年で、Pepper や Boston Dynamics のロボットをはじめ、いろんなものに AI を搭載し、取り組み始めているわけでございます。10 年前はゼロでした。今はあっという間にこれが広がってきたということです。

また、あのときに IoT、眼鏡、靴、冷蔵庫、自動車など全てのものがライフログとしてインターネットにつながり、それらのデータを統合するクラウドが、人類最大の財産になるということを言いました。

まだほとんど Amazon の AWS とかが語られていない頃ですね。しかし、今やこのクラウドがまさに人類最大の財産になりつつあるということで、大いにその存在感を増しているということです。

これらをまとめると、SBG は一貫して、「情報革命で人々を幸せに」する、貢献したいという思いです。創業第 1 日目から一度も変わっていません。この間に SBG はパソコンソフトの卸業務、LAN、インターネットモバイルなど、いろいろなかたちでめまぐるしく業態を変えてきたじゃないかとおっしゃる人が多いですが、私から見れば一度も変わっていません。

私は何屋さんかというと、情報革命屋さんです。情報革命をしたい。幕末でいえば明治維新をしたいわけであり、途中で船を動かす船長みたいなことをやったり、法律の書物を胸に入れてみたりとか、「何屋さんだ、あいつは？」と言われることが幕末にも人々の中にあったと思いますが、結局やりたかったのは船屋さんじゃなくて、明治維新という革命を行いたかったのだろうと思います。

私は情報革命をやりたいということであって、その方法論はその時代、時代の道具、形態によってあり方はどんどん変わる。いいじゃないか、そんなものは取るに足らないこと、やりたいのは革命。情報革命で結果何をしたいのだというと、人々を幸せにしたい。この一本です。

われわれがグループの力を合わせて、同じ志を持っている人々の集合体でこの目的を達成することができれば、それでいいじゃないかと私は思っているわけです。

「情報革命で人々を幸せに」、この一本です。それを最も効率よく実現させる力とスピード、このために戦略的持株会社ということで、彼らに影響を与え、群れで達成していく。これが群戦略です。

以上、私の変わらぬ思いを、今日は少し事業を中心に話をさせていただきました。ありがとうございます。以上が私のプレゼンでした。

質疑応答

孫：それでは、ただ今から、報告事項および決議事項に関して、いただいたご質問などへの回答に移りたいと思います。

冒頭でも申し上げました通り、ご発言につきましては質疑応答の開始から 5 分後に締め切らせていただきます。

それでは、いただいたご質問に回答させていただきます。

今、質問を集めている最中です。すでに事前に寄せられている質問がありますので、まずその中からお答えしていきたいと思います。

質問１：以前から 60 代で次の経営陣にバトンタッチすると宣言しているが、その気持ちに変わりはないか。

回答：変わりはありません。今、62 歳、63 歳、大体そんな感じです。あと 7～8 年残っていますので、7～8 年は元気に SBG の会長 兼 社長を続けたいと思いますが、69 歳ぐらいになったら、最近医学も進んでいますからおおむね 60 代だと言い張って、もしかしたら少しオーバーするかもしれません。それはそのときになって考えるということです。

大体そんな感じということで、厳密に 69 歳の誕生日を過ぎたら「もうお前は退場、約束していたじゃないか」と言わないでいただきたい。約束はおおむねそんな感じということで、今のうちに修正しておきたいと思います。その時の私の健康状態、会社の状況、置かれた事業の状況にもよるでしょう。ですから、そこは大体そんな感じということで、もしちょっと違っても責めないでほしい。今のうちに少し予防線を張っておきたいと思います。

質問 2：経済環境が変化する中、投資先の決定、管理をどのように行うのか、社長個人の能力に頼るのは限界があるのではないか。

回答：私の能力、正直申し上げて結構自信あるのです。少し自信過剰で、よく「お前は孫のくせに不遜だ」とお叱りをいただくのですが、正直申し上げますと結構自信があります。自信があり過ぎてワンマンだとか、よくいろいろ言われるのですが、自信って大事だと思うのです。自信はあります。

しかし、これだけ多くの投資を行い、これだけ多くのグループを率いることになりますと、私個人の能力が限界になってはいけないと思っているわけです。ですから、多くの社員、そして幹部諸君

には最大限の力を発揮してもらい、この力を結集することによって、われわれの力はより大きく発揮できると、これまた心からそう信じています。また、それらの能力を備えた社員、幹部がどんどんと最近増えてきていますので、守備範囲も世界に広がっています。

今回のTモバイル、スプリントの件ではマルセロは大いに頑張ってくれましたし、何かと批判をいただくラジーブも、彼がいなかったらSVFはできていないと思います。大変に活躍していますし、先ほどいくつものファミリーカンパニーとして、世界中のSVF投資先であるVir、Coupang、Grab、Uberなどいろいろ申し上げました。彼らはどんどん伸びているということを申し上げましたが、これは皆、SVFを始めたからこそ増えたファミリーカンパニーで、これが今から大いに伸びていくと私は信じています。これもラジーブが頑張ってくれているから、SVFがこれから大いに伸びると思っています。

他にも資金調達だとか、その他いろんな面で多くの社員、幹部が頑張っている。後藤君にはいつも僕は叱られながら、社長、もうそんなにお金ありませんとか、いつも言われるんですけれども。彼がいなかったらSBGは大変苦しんでいたと思います。心から感謝しています。

一人一人挙げると時間が20時間ぐらい必要になりますので、事例はそのくらいにしますが、本当に活躍して、総力戦で伸ばしていっているということです。

質問3：配当額をどのように決めているのか、あまりにも低い。今後3年程度の株主還元の将来像を示してほしい。

回答：配当が低いということですが、配当はないかもしれないということを5月に発表させていただきました。当分、配当は期待しないでほしいというのが私の正直な気持ちです。もちろんいつかはします。できるだけたくさんしたいと思っていますが、今は4.5兆円の資金化についてご説明しましたが、むしろ配当に回すよりも、同じ株主還元として自社株買い2.5兆円について発表させていただきました。日本史上最大じゃないかと思います。世界でも例を見ないぐらいの規模だと思います。2.5兆円の自社株買いを方向として発表させていただきました。

実際の取締役会の決議とその実行は、四半期ごとに一歩一歩やっていきます。現金を手にして、そして市場から順番に買っていくプロセスで、慎重に一歩一歩いきますが、そういう方向性を発表させていただきました。こちらを中心に、株主還元は行っていきたいと思っています。

質問4：役員報酬が他社と比べて高い。報酬をどのように算定しているのか考え方を教えてほしい。

回答：役員報酬は、これからも大いに払っていきたいと思っています。むしろ増やしたい。あまり増やしたいと言うと幹部が期待するので、ほどほどにしておきますが、会社の企業価値を伸ばすために死に物狂いで働き、しかも、それで株主にとっての価値が増えたならば、その増えた部分の何パーセントかは、それに一番貢献した社員、あるいは幹部に気前よく払っていくのが私の考えです。気前よく払っていくことによって、元気に株価が伸びるはず、少なくとも株主価値は着実に伸びるはず。伸ばした株主価値に対する見返りは幹部にどしどし払っていきたい。

日本は役員報酬が少なすぎると、逆に思っています。日本は総サラリーマン化して、日本の大企業がどんどん力を失っている。僕は報酬体系にも一つ連動していると思うのです。日本はただ真面目に真面目に、細かく細かく積み上げげて、リスクを取らない。リスクや借金が怖いと、ほとんど借金しない、金が余っていると。何でリスクを取らない会社が伸びるのだと、伸びるわけないだろう、何でリスクをもっと取らないのだと僕は言いたい。青年の主張です。青年ではありませんが、心は青年です。

何が怖いんだ、借金してでも、さっきのスプリントもありましたよね。持っていた株の価値は、現金 4,000 億円でしたが、2 兆を超える借入をして、リスクを取って攻めていった。途中で船が沈みそうになったが、無事到着した。持っていた最初の 4,000 億円が 5 倍ぐらいになったじゃないかということです。もちろんそのリスクを乗り越える自信がなかったら、そのリスクは取るべきじゃないでしょう。

リスクを乗り越える自信があったならば、むしろ取りにいくべき、それを取りにいかないと成果は得られないと思っています。ですから、そのリスクを取りにいく死に物狂いの幹部には、取ったリスクの成果が出たときには、その成果に対して分配していく。だから、次のリスキーな航海にも攻めていけるというのが私の考えです。

これは演説し出すと止まらないですね。すみません、次にいきましょう。

質問 5：コロナショックのようなときこそ、明日を担う企業に傘をさすべき。昨今、保有株を現金化しているが、時価総額を世界最大にするという目標に反するのではないか、社長の本心を問いたい。

回答：雨が降ったときに傘をさす、貸すのが銀行だ、雨が降ったときに傘を貸さない銀行というのはけしからんという表現があります。そのことを SBG にも言いたいのだと思います。われわれは貸金業ではありません。お金を貸すときに銀行は往々にして担保を取ります。われわれはベンチャーの会社への投資ですから、担保をもとにお金を提供するわけではないのです。その会社の将来性を見て、その会社に出資というかたちでお金を投じるわけです。よりリスキーなものへのお金の投

下が行われるわけですが、それでも絵に描いた餅のようなビジネスプランを持ってこられて、ぼろぼろになって、さらにお金をくださいというのは無茶な話で、一歩間違えると、WeWork のような状況になるわけです。今 WeWork は必死に立ち上がろうとして、結構良い方向に進展しつつあります。私はこれはこれで期待をしているのですが、少なくともその会社を救済するためにお金を出すことは、原則としてしたくない。あくまでもその会社が伸びるから投資するということです。雨が降ったら傘を貸すのではない。晴れがもうすぐ見えるから、傘を提供することは大いにあるということです。

質問 6：SVF の出資先、会社に対して経営決定権を持つのか、また将来、グループ会社とするのか、もしくは株を売却するのか。

回答：原則として、SVF は株を売却します。12 年が投資期間というのが出資をいただいているパートナーとの契約です。延長は 2 年間で、合計 14 年の中で、投資した資金は回収せねばならない。原則、売却によって回収することになります。この基本の中で原則そのようにするわけですが、投資パートナーにはお金を返すけれども、いくつかの会社は SBG 持分のポーションは残して、後の中核会社の一つとするのは例外的にあるかもしれません。これはあくまでも例外的な話で、原則は、投資したら回収するのがベンチャーキャピタルの基本的な考えです。われわれ、SVF も大きなベンチャーキャピタルという状況ですので、同じモデルになります。

質問 7：アーム事業について、スマートフォン用メインチップの 95%以上にアームテクノロジーが採用されているということですが、どのようなテクノロジーなのか。

回答：先ほどのプレゼンの中でも申し上げましたが、アームは CPU です。車でいえばエンジンで、スマホの中に入っているエンジン。これは世界中、ほぼ全部アームというかたちになりました。これはスマホだけではなく、自動車、ゲームマシン、家電、そして先ほどから言っている Amazon のクラウドなどにも入っています。最近は AI の機能をどんどん中に入れる、あるいは横に AI のチップを追加することをどんどん強化しています。ですから、IoT みたいなものにも使われるし、巨大なものにも使われる。AI 化がどんどん進んでいるということです。

質問 8：自社株買いの方針について聞かせてほしい。

回答：すでに 2.5 兆円の自社株買いを方針として発表していますが、これは 3 月の発表の通りです。方針ですから約束ではありませんが、自社株買いをするための軍資金の約 8 割のお金をすでに手に入れて、残り 2 割についてももう目途が立っていますので、これは着実に実行していきたいと考えています。

質問 9：投資先企業間のシナジー追及などが全体的に甘い。誰が責任を持ってこの点を強化するのか、説明願いたい。

回答：シナジーは強制できるものではありません。われわれは 51%以上あるいは 100%、その会社に対して持っているわけではない。あくまで 20%から 30%前後を持っているということです。アリババに対しても約 25%の株を持っていますが、アリババに対して一度も何かのシナジーあるいは方向性を強制したことはありません。強制しなくても、素晴らしい会社であれば立派に伸びていくわけです。また、強制しなくても、アリババとわれわれのグループ会社は何度もシナジーが出るような業務提携を行い、その成果が至るところに表れているわけです。

シナジーというのは何となく促して、血は水より濃いと言いますが、ファミリーカンパニーがお互いにどんどん協力し合うと、大株主としてのわれわれはハッピー。大株主のわれわれがハッピーなことを彼らは慮る。良い意味での忖度が働くわけです。その慮る部分が全然なくなれば、これは持っていてもしょうがないのではないかということで、売却とかになるわけです。彼らがわれわれのファミリーでいることをより心地よいと思うのであれば、その大株主との慮りは、血がつながっているわけですから、大いに良い意味で働くわけです。これがファミリーカンパニーだと。

皆さんのファミリーもそうだと思うのです。子どもに強制しようとしても、子どもは聞いてくれない。でも、ファミリーだからやっぱり困ったとき、大事なとき、あるいはエキサイティングなときは協力し合う。それがわれわれのファミリーカンパニーに対する物の考え方です。

質問 10：買収したときにアームは中心的企業になると言っていたが、改めてアームへの今後の期待を教えてほしい。

回答：先ほどからアームはすごい、素晴らしい、私は大好きだということを申し上げています。その思いはますます強くなってくると考えています。これがわれわれのデジタル情報革命の、ある種のペースメーカーみたいなものです。情報革命は何によって起きるかというと、CPU によって起きる。CPU が情報革命のエンジンとして計算を行い、それにエネルギーとしてデータが投入される。エンジンがアームで、データは石油のようなものです。これが重なって、デジタル情報革命が進んでいく。ですから、われわれのファミリー企業全てがアームを何らかのかたちで使っている。携帯を使っている世界中の皆さん、全員がアームを使っているということです。

質問 11：The We Company、OneWeb で巨額の損失を計上しているのに、誰もその責任を取らず、多額の報酬を計上している。理解に苦しむ。報酬を返上するのが筋ではないか。

回答：最大の責任は私にあります。WeWork も幹部や社員、たくさんの人が最初から反対していたのですよ。途中でも反対し、怒り狂ったような人もいました。私も言い返しながら、最終的には皆で合意して投資をしたわけです。

反対を押し切ってやった私に最大の責任があります。ですから、最大に減俸すべきというと、私になります。私は SBG からの報酬は減俸しています。今回も減俸ということで、「俺はゼロでもいい、減俸しないと申し訳ない」ということを申しました。

報酬としていただいている 1 億円、今までは 2 億円は全額寄付しています。ですから、事実上、SBG からの報酬は、寄付も含めるとゼロということです。

ゼロならばそれ以上の減俸はない、どのように罰したらいいのだということですが、私は SBG の筆頭株主ですから、SBG の株価が下がるのが、私に対する最大の減俸ということになります。

SBG の株価が下がると、株主の皆さまにもご迷惑をかけますし、私に対する一番の罰であるということだと思います。ですから、私が決めるというよりも、株主、投資家の皆さまが、「あいつはもっと懲らしめよう」と思えば株価が下がるということでしょうし、「いや、これとあれでは失敗したけれど、別のもので成功した部分のほうが大きい」と思えば、株価は逆に上がる。総合的な判断を、皆さまに毎日いただいているということではないかと思います。

それ以外の幹部については、これまた同じようにトータルで判断すべきだと思います。良い部分もあれば悪い部分もある、総合計の合計点で判断して決めていきたいと思います。

質問 12：ポストコロナの新しい生活様式の中、最も力を入れたいサービス分野を教えてほしい。

回答：これも先ほど申しました。オンラインショッピング、オンライン教育、オンライン診療、オンラインエンターテインメント、オンラインワークプロセスということで、まさにネットを使ったさまざまなライフスタイルの革新、情報革命、これを一番やりたい。

その範囲は広く大きく広がる。あらゆるものがデジタルトランスフォーメーションする。ホテルもオフィスも、今はコロナで外出制限がありますが、いずれポストコロナになると人々が活発に活用するようになると思いますし、自動運転もこれから大いに伸びる。

それら全てに共通しているのはただ一つです。デジタルトランスフォーメーション、AI を中心にこれから活用していく会社です。オールドエコノミーには一切、投資をするつもりはないということです。

質問 13：取締役 2 名を増員した理由を聞かせてほしい。

回答：社外役員が 2 名に減っています。もう一度倍増して 4 名に増やす。社外役員の方々には、ぜひ厳しいご指摘、ご意見をどしどしいただきたいと思います。できるだけ私が暴走しないようにガバナンスを強化する。もちろん、うちの幹部も私に言いたい放題意見をするのですが、たまには、「言い過ぎだろうそれは」と僕も時々言い返しますが、喧々諤々やっています。

でも、社外役員の方に強いご指摘をいただくのは、社内の幹部から言われるよりもさらに襟を正さなきゃいけない状況になりますので、こちらを 2 名増員したということです。

質問 14：投資している 88 社のうち、何社がアリババのように成長するか。

回答：アリババは巨大な会社になりましたが、まだまだ伸び続けているのは先ほどプレゼンの中でも申し上げた通りです。世界でもトップの 5 社ぐらいに入るような時価総額になりましたので、そのレベルが 5 社も 10 社も出るとは思いません。でも、1 社か 2 社はそういう会社が出るような気がしますし、ミニアリババのような会社は 10 社、15 社ぐらいは出るのではないか。前回の決算発表でも申し上げましたが、88 社の中で 15 社ぐらいはコロナの谷の向こう岸に届かず、倒産するのではないか、でも、15 社ぐらいは羽ばたくということを申しました。残りは平均的な成功ということですが、だんだんとその成功しそうな 15 社は見えてきた状況です。大いに期待しています。

質問 15：今回のやり方は都合がいい質問だけ取り上げる可能性があり、総会の透明性が疑われる。

回答：今回のようなコロナで人々が集まることが難しいという状況が変われば、また直接多くの株主の皆さまにお会いして、ランダムで意見、質問をいただく場、同じ部屋で空気を感じながらというのは素晴らしいと思いますので、ぜひ、その日が早く来ることを願っています。

でも、インターネットでこれをやることによる、メリットもあります。先日も SBKK、Z ホールディングスもオンラインの総会をやりましたが、同時視聴者が 4 万人いたような記憶があります。4 万人も同時に同じ場所に集まって、そこから質問をがんがんするのはなかったわけですが、今回のようにインターネットでやることで、より多くの人が質問に参加し、答える機会ができました。こういう完全オンラインは初めてですから、できるだけさらに進化させていきたいと思います。

質問 16：孫氏の突っ走りにちょっと待ったをかけられる人が、今回の取締役候補の中にいますか。

回答：この間、社外取締役候補者の川本さんともビデオ会議をしました。かなり厳しい質問、指摘を早速、がんがんいただきまして、後藤君と私がたじたじでした。これは先が素晴らしいなと感じたわけですが。すごいですね、やっぱり。早稲田で教授として、また金融界の専門家としてこれま

でも大いに世界的な仕事をしておられますので、大変な深い見識と、また厳しいご質問、ご指摘をいただく立場でございますので、ぜひぜひ指摘をいただきたいと思います。

また、飯島さんや松尾さんからも、どんどん指摘をいただいていますし、今度はアメリカからリップブーが社外役員に入ります。彼もベンチャー投資を何百社も今までやって、大変な成績を上げていますし、Cadence というアメリカの上場会社の会長をやっている。彼が会長になってから時価総額、株価は確か 20 倍か 40 倍か、すごく伸びました。とても尊敬されている経営者です。そういう意味で、どしどしと指摘をいただきたいと思います。

でも、待ったをかけるばかりがいいとも限らないんです。その待ったを振り切って突っ走って、時には良い結果が出ることもありますので、そこはケースバイケースで頑張りたいと思います。

質問 17：7,000 円以上での自社株買いはやめてほしい。また、T モバイルをこれ以上売らないでほしい。

回答：これはいくらだったら正しいのかは、その時われわれが保有している持株の価値、社会的な情勢、われわれの資金繰りなど、総合的に判断しなければいけません。ですから、いくらだったら買うとか買わないということを公言するのは控えたいと思います。われわれとしてはできるだけ掲げた方針については着々と進めていきたいと思っています。

T モバイルをこれ以上売らないでほしいというのは、T モバイルの価値に期待をしているということであろうと思います。少なくともわれわれとドイツテレコム、ならびに T モバイルとの約束では、残りの株はこれから 4 年間は大半を売らない約束になっていますので、そのようなかたちに原則なるのではないかなと思います。

もちろん、これは相手との交渉、あるいはわれわれの状況で変わることはあるかもしれません。今回も交渉して状況が変わったわけですから、これはさまざまな状況に応じてなる。ただ、今回の契約の変更の中で、ドイツテレコム側が先買権を持っていて、それを早い期間に行使することも可能性としてあると、合意したと思いますので、そういうことも含めて、状況を見ながらということになると思います。

ただ、T モバイルの成長は大いに期待しています。われわれが今まで資金化したものについても、これ以上伸びないから売るのではなく、お金が必要だったから仕方なく売る状況もあったことをご理解いただきたいと思います。

質問 18：情報革命ということでは、衛星事業に進出しますか。

回答：OneWeb で、通信衛星を使った通信のネットワークをつくりたいという思いはありました。衛星事業、ロケットを打ち上げて、衛星を自ら持って云々というのはおそらくないのではないかな。何があるか分かりませんが、少なくとも今はそういう気持ちはありません。

だいぶ時間も経過しましたので、そろそろ締めさせていただきたいと思います。決議事項の採決に入らせていただきたいと思います。

採　　決

第１号議案
剰余金の処分の件

第 1 号議案、剰余金処分、つまり配当の件を採決いたします。本議案の原案に賛成の方は、専用サイトに表示されている賛成を選択いただき、送信ボタンのクリックをお願いいたします。決議の結果につきましては、後ほど報告いたします。

採　決

第２号議案
取締役13名選任の件

次に第 2 号議案、取締役 13 名選任の件を採決いたします。本議案の原案に賛成の方は、専用サイトに表示されている賛成を選択いただき、送信ボタンのクリックをお願いいたします。

それでは、これより決議の結果を確認しますので、しばらくお待ちください。

先ほどから質問をたくさんいただいて、ついつい気持ちが入ると演説会のようになってしまって、最初事務局からは 1 時間と言われていたんです。こういうコロナのときですから、なるべく 1 時間で終わらせましょうと注意を受けていたのですが、すでにだいぶ時間が過ぎています。申し訳ありません。1 時間の目標をはるかに超えていますが、多くの質問、有意義な質問をいただいたと思います。

決議の結果が確認できましたので、報告をいたします。

第 1 号議案および第 2 号議案、それぞれにつきまして過半数の賛成を得ましたので、両議案とも原案どおり承認可決されました。

以上をもちまして、本総会の議事の全てを終了いたしました。これにて、第 40 回定時株主総会を閉会いたします。

新任取締役

後藤　芳光　　**リップブー・タン**　　**川本　裕子**

最後に、改めての紹介となりますが、本総会で新たに選任いただきました取締役は、掲載のとおりでございます。今後ともよろしくお願いいたします。

また、本総会の終結の時をもって、当社の取締役を 13 年間務めましたジャック・マーが退任いたしました。これは彼の方針で SBG の取締役を退任しますと。また、アリババグループの Executive Chairman からも退任することを彼はすでに発表して、実際にダニエル・チャンにバトンを渡しています。

今日のジャックの任期満了をもちまして、今日、私自身もアリババグループの取締役を退任することになりました。私の希望でアリババ側に申し入れをさせていただき、ジャックの退任に合わせて私もアリババ側を円満に退任することになりました。もちろん何か期待がなくなったとか喧嘩したとか、そういうことではありません。

あくまでもわれわれの思いとして、ジャックが SBG を卒業するのであれば私もアリババの取締役を卒業するということで、同じ日に合わせて、今日をもってアリババの取締役を私も退任したいと、この場を借りて皆さまにお伝えしたいと思います。

これまでのジャックのわれわれに対する貢献に、本当に心から感謝していますし、ジャックが退任した後も、SBG はアリババの筆頭株主ですし、アリババもわれわれにとって最大の持株の財産、中核会社であることを先ほどから申し上げている通りです。

ジャックは先ほど言いましたように、すでにアリババの Executive Chairman も昨年退任しています。ダニエル・チャンが CEO を引き継いでおり、彼が今後もアリババの若き強いリーダーとして活躍してくれることが確信できましたので、むしろ彼を大いに信任する、彼に任せるという意味合いも込めて、祝福したい。私とジャックの退任はダニエルに対する信任であり、ダニエルに対する全幅の信頼を置くことを心の底から納得できたという意味での卒業です。ただ、アリババの株はできるだけたくさん、長く持ち続けていきたいと思っています。

以上でございます。本日は誠にありがとうございました。

IMPORTANT INFORMATION

Disclaimers

This presentation provides relevant information about SoftBank Group Corp. (“SBG”) and its subsidiaries (together with SBG, the “Company”) and its affiliates (together with the Company, the “Group”) and does not constitute or form any solicitation of investment including any offer to buy or subscribe for any securities in any jurisdiction.

This presentation contains forward-looking statements, beliefs or opinions regarding the Group, such as statements about the Group’s future business, future position and results of operations, including estimates, forecasts, targets and plans for the Group. Without limitation, forward-looking statements often include the words such as “targets”, “plans”, “believes”, “hopes”, “continues”, “expects”, “aims”, “intends”, “will”, “may”, “should”, “would”, “could” “anticipates”, “estimates”, “projects” or words or terms of similar substance or the negative thereof. Any forward-looking statements in this presentation are based on the current assumptions and beliefs of the Group in light of the information currently available to it as of the date hereof. Such forward-looking statements do not represent any guarantee by any member of the Group or its management of future performance and involve known and unknown risks, uncertainties and other factors, including but not limited to: the success of the Group’s business model; the Group’s ability to procure funding and the effect of its funding arrangements; key person risks relating to the management team of SBG; risks relating to and affecting the Group’s investment activities; risks relating to SoftBank Vision Fund L.P., its investments, investors and investees; risks relating to SoftBank Corp. and the success of its business; risks relating to law, regulation and regulatory regimes; risks relating to intellectual property; litigation; and other factors, any of which may cause the Group’s actual results, performance, achievements or financial position to be materially different from any future results, performance, achievements or financial position expressed or implied by such forward-looking statements. For more information on these and other factors which may affect the Group’s results, performance, achievements, or financial position, see “Risk Factors” on SBG’s website at https://group.softbank/en/ir/investors/management_policy/risk_factor. None of the Group nor its management gives any assurances that the expectations expressed in these forward-looking statements will turn out to be correct, and actual results, performance or achievements could materially differ from expectations. Persons viewing this presentation

should not place undue reliance on forward looking statements. The Company undertakes no obligation to update any of the forward-looking statements contained in this presentation or any other forward-looking statements the Company may make. Past performance is not an indicator of future results and the results of the Group in this presentation may not be indicative of, and are not an estimate, forecast or projection of the Group's future results.

The Company does not guarantee the accuracy of information in this presentation regarding companies (including, but not limited to, those in which SB Funds have invested) other than the Group which has been quoted from public and other sources.

Regarding Trademarks

Names of companies, products and services that appear in this presentation are trademarks or registered trademarks of their respective companies.

Important Notice – Trading of SBG Common Stock, Disclaimer Regarding Unsponsored American Depository Receipts.

SBG encourages anyone interested in buying or selling its common stock to do so on the Tokyo Stock Exchange, which is where its common stock is listed and primarily trades. SBG's disclosures are not intended to facilitate trades in, and should not be relied on for decisions to trade, unsponsored American Depository Receipts ("ADRs").

SBG has not and does not participate in, support, encourage, or otherwise consent to the creation of any unsponsored ADR programs or the issuance or trading of any ADRs issued thereunder in respect of its common stock. SBG does not represent to any ADR holder, bank or depositary institution, nor should any such person or entity form the belief, that (i) SBG has any reporting obligations within the meaning of the U.S. Securities Exchange Act of 1934 ("Exchange Act") or (ii) SBG's website will contain on an ongoing basis all information necessary for SBG to maintain an exemption from registering its common stock under the Exchange Act pursuant to Rule 12g3-2(b) thereunder.

To the maximum extent permitted by applicable law, SBG and the Group disclaim any responsibility or liability to ADR holders, banks, depositary institutions, or any other entities or individuals in connection with any unsponsored ADRs representing its common stock.

The above disclaimers apply with equal force to the securities of any of the Group which are or may in the future be the subject of unsponsored ADR programs, such as SoftBank Corp. or Z Holdings Corporation.

Notice regarding Fund Information contained in this Presentation

This presentation is furnished to you for informational purposes and is not, and may not be relied on in any manner as, legal, tax, investment, accounting or other advice or as an offer to sell or a solicitation of an offer to buy limited partnership or comparable limited liability equity interests in any fund managed by a subsidiary of SoftBank Group Corp. (the "SB Fund Managers" and each an "SB Fund Manager", and including SB Investment Advisers (UK) Ltd. and any affiliates thereof ("SBIA")) (such funds together with, as the context may require, any parallel fund, feeder fund, co-investment vehicle or alternative investment vehicle collectively, the "SB Funds" and each an "SB Fund", including SoftBank Vision Fund L.P. (the "Vision Fund I").).

None of the SB Funds, the SB Fund Managers, including SBIA, any successor or future fund managed by a SB Fund Manager, SoftBank Group Corp. or their respective affiliates makes any representation or warranty, express or implied, as to the accuracy or completeness of the information contained herein and nothing contained herein should be relied upon as a promise or representation as to past or future performance of the SB Funds or any other entity referenced in this presentation, or future performance of any successor fund managed by a SB Fund Manager.

For the avoidance of doubt, the SB Funds are prior funds managed by an SB Fund Manager which are not being offered to investors. Information relating to the performance of the SB Funds or any other entity referenced in this presentation has been included for background purposes only and should not be considered an indication of the future performance of the relevant SB Fund, any other entity referenced in this presentation or any future fund managed by an SB Fund Manager. References to any specific investments of an SB Fund, to the extent included therein, are presented to illustrate the relevant SB Fund Manager's investment process and operating philosophy only and should not be construed as a recommendation of

any particular investment or security. The investment performance of individual investments of an SB Fund may vary and the performance of the selected transactions is not necessarily indicative of the performance of all of the applicable prior investments. The specific investments identified and described in this presentation do not represent all of the investments made by the relevant SB Fund Manager, and no assumption should be made that investments identified and discussed therein were or will be profitable.

The performance of an SB Fund in this presentation is based on unrealized valuations of portfolio investments. Valuations of unrealized investments are based on assumptions and factors (including, for example, as of the date of the valuation, average multiples of comparable companies, and other considerations) that the relevant SB Fund Manager believes are reasonable under the circumstances relating to each particular investment. However, there can be no assurance that unrealized investments will be realized at the valuations indicated in this presentation or used to calculate the returns contained therein, and transaction costs connected with such realizations remain unknown and, therefore, are not factored into such calculations. Estimates of unrealized value are subject to numerous variables that change over time. The actual realized returns on the relevant SB Fund's unrealized investments will depend on, among other factors, future operating results, the value of the assets and market conditions at the time of disposition, any related transaction costs and the timing and manner of sale, all of which may differ from the assumptions and circumstances on which the relevant SB Fund Manager's valuations are based.

Past performance is not necessarily indicative of future results. The performance of an SB Fund or any future fund managed by an SB Fund Manager may be materially lower than the performance information presented in this presentation. There can be no assurance that each SB Fund or any future fund managed by the relevant SB Fund Manager will achieve comparable results as those presented therein.

The actual realized return on unrealized investments by an SB Fund may differ materially from the performance information indicated in this presentation. No assumption should be made that investments identified and discussed in this presentation were or will be profitable, or that investments made in the future will be comparable in quality or performance to the investments described therein.

Third-party logos and vendor information included in this presentation are provided for illustrative purposes only. Inclusion of such logos does not imply affiliation with or endorsement by such firms or businesses. There is no guarantee that an SB Fund Manager, an SB Fund's portfolio companies, any future portfolio companies of a future fund managed by an SB Fund Manager or SoftBank Group Corp. will work with any of the firms or businesses whose logos are included in this presentation in the future.

SBIA manages separate and independent operations and processes from those of SoftBank Group Corp., and any SB Funds managed by SBIA, including Vision Fund I, are solely managed by SBIA.

Important information regarding Fund Information contained in this Presentation

This presentation (this "Presentation") is furnished to you for informational purposes and is not, and may not be relied on in any manner as, legal, tax, investment, accounting or other advice or as an offer to sell or a solicitation of an offer to buy limited partnership or comparable limited liability equity interests in SoftBank Vision Fund L.P. (together with, as the context may require, any parallel fund, feeder fund, co-investment vehicle or alternative investment vehicle, "SVFI" or the "Vision Fund I") or any successor fund managed by SB Investment Advisers (UK) Ltd. (the "Manager" or "SBIA") or any affiliates thereof. This Presentation is not intended to be relied upon as the basis for any investment decision, and is not, and should not be assumed to be, complete. The contents of this presentation are not to be construed as legal, business or tax advice.

None of the Vision Fund I, the Manager, any successor fund managed by the Manager, SoftBank Group Corp. (together with its affiliates, "SoftBank") or their respective affiliates makes any representation or warranty, express or implied, as to the accuracy or completeness of the information contained herein and nothing contained herein should be relied upon as a promise or representation as to past or future performance of the Vision Fund I or any other entity referenced in this Presentation, or future performance of any successor fund managed by the Manager.

Recipients of this Presentation should make their own investigations and evaluations of the information contained in this Presentation and should note that such information may change materially. The recipient agrees that it shall independently and without reliance upon SoftBank, the Manager or any of their related persons and based on such documents and information as it has deemed appropriate and on consultations with its own legal, tax, regulatory, accounting, investment and financial advisors, make its own appraisal of, and investigation into the business, operations, property, financial and other conditions, creditworthiness, likelihoodprovide the recipient with any information regarding the business, operations, property, financial and other condition and creditworthiness of the companies discussed herein or any of its affiliates which may come into the possession of any of them.

of success, merits and consequences of the opportunities described herein. Recipient acknowledges and agrees that none of the Vision Fund I, the Manager, any successor fund managed by the Manager, any affiliate of the foregoing or any related person shall have any duty or responsibility to

For the avoidance of doubt, the Vision Fund I is a prior fund managed by SBIA which is not being offered to investors. Information relating to the performance of the Vision Fund I or any other entity referenced in this Presentation has been included for background purposes only and should not be considered an indication of the future performance of the Vision Fund I, any other entity referenced in this Presentation or any successor fund managed by SBIA. References to any specific investments of the Vision Fund I, to the extent included herein, are presented to illustrate the Manager's investment process and operating philosophy only and should not be construed as a recommendation of any particular investment or security. The investment performance of individual investments in the Vision Fund I may vary and the performance of the selected transactions is not necessarily indicative of the performance of all of the applicable prior investments. The specific investments identified and described herein do not represent all of the investments made by the Manager, and no assumption should be made that investments identified and discussed herein were or will be profitable.

Statements contained in this Presentation (including those relating to current and future market conditions and trends in respect thereof) that are not historical facts are based on current expectations, estimates, projections, opinions and/or beliefs of the Manager. Such

statements involve known and unknown risks, uncertainties and other factors, and undue reliance should not be placed thereon. In addition, no representation or warranty is made with respect to the reasonableness of any estimates, forecasts, illustrations, prospects or returns, which should be regarded as illustrative only, or that any profits will be realized. Certain information contained herein constitutes "forward-looking statements," which can be identified by the use of terms such as "may", "will", "should", "expect", "project", "estimate", "intend", "continue", "target" or "believe" (or the negatives thereof) or other variations thereon or comparable terminology. Due to various risks and uncertainties, actual events or results or actual performance of the Vision Fund I or any successor fund managed by the Manager (or any other entity referred to herein) may differ materially from those reflected or contemplated in such forward-looking statements. As a result, investors should not rely on such forward-looking statements in making their investment decisions. No representation or warranty is made as to future performance or such forward-looking statements.

None of the information contained herein has been filed with the U.S. Securities and Exchange Commission, any securities administrator under any securities laws of any U.S. or non-U.S. jurisdiction or any other U.S. or non-U.S. governmental or self-regulatory authority. No such governmental or self-regulatory authority will pass on the merits of the offering of interests in the Vision Fund I or any successor fund managed by the Manager or the adequacy of the information contained herein. Any representation to the contrary is unlawful.

Certain information contained in this Presentation has been obtained from published and non-published sources prepared by other parties, which in certain cases has not been updated through the date hereof. While such information is believed to be reliable for the purposes of this Presentation, none of the Vision Fund, any future fund managed by the Manager, the Manager, SoftBank, or their respective affiliates assumes any responsibility for the accuracy or completeness of such information and such information has not been independently verified. Except where otherwise indicated herein, the information provided in this Presentation is based on matters as they exist as of the date of preparation of this Presentation and not as of any future date, and will not be updated or otherwise revised to reflect information that

subsequently becomes available, or circumstances existing or changes occurring after the date hereof.

There can be no assurance that the expected projected results will be achieved, and actual results may vary significantly from the expected projections. General economic, natural and other conditions, which are not predictable and are outside the control of the Manager, can have an adverse impact on the reliability of such expected projections. There can be no assurance that the Vision Fund or any future fund managed by SBIA will be able to make investments in companies that the Manager otherwise deems appropriate or, if it does, as to the size of the position it will be able to build. Moreover, the inability to sell investments in companies in these circumstances could materially adversely affect the investment results of the Vision Fund or any future fund managed by the Manager. There is no guarantee that the Vision Fund or any future fund managed by SBIA will be able to successfully implement the strategies described in the Information.

Certain information presented herein may be based, in part, on information from third parties believed to be reliable and/or assumptions that later prove to be invalid or incorrect.

Third-party logos and vendor information included herein are provided for illustrative purposes only. Inclusion of such logos does not imply affiliation with or endorsement by such firms or businesses. There is no guarantee that the Manager, the Vision Fund's portfolio companies, any future portfolio companies of a future fund managed by the Manager or SoftBank will work with any of the firms or businesses whose logos are included herein in the future.

No assumption should be made that investments identified and discussed herein were or will be profitable, or that investments made in the future will be comparable in quality or performance to the investments described therein. The actual return realized by any investor in the Vision Fund or any future fund managed by SBIA may differ materially from those reflected or contemplated in the data presented in this Presentation.

EACH RECIPIENT ACKNOWLEDGES AND AGREES THAT IT IS RECEIVING THIS PRESENTATION ONLY FOR THE PURPOSES STATED ABOVE AND SUBJECT TO ALL APPLICABLE CONFIDENTIALITY OBLIGATIONS AS WELL AS THE UNITED STATES SECURITIES LAWS PROHIBITING ANY PERSON WHO HAS RECEIVED MATERIAL, NON-PUBLIC INFORMATION FROM PURCHASING OR SELLING SECURITIES OF THE APPLICABLE ISSUER OR FROM COMMUNICATING SUCH INFORMATION TO ANY OTHER PERSON UNDER CIRCUMSTANCES IN WHICH IT IS REASONABLY FORESEEABLE THAT SUCH PERSON IS LIKELY TO PURCHASE OR SELL SUCH SECURITIES.

免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社（以下「SBG」）及びその子会社（以下 SBG と併せて「当社」）並びに関連会社（以下当社と併せて「当社グループ」）に関する関連情報を提供するものであり、いかなる法域においても、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成するものではなく、またいかなる投資勧誘とみなされるものでもありません。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績の保証を意味するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBG の経営陣における重要な人物に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、ソフトバンク・ビジョン・ファンド並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、訴訟並びにその他の要因を含みこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、功績又は財務状態は、

将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、功績又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、功績又は財務状況に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBG のホームページの「事業等のリスク」（https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor)をご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであると保証するものではなく、実績、業績又は功績は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依存してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測又は予想を示すものではなく、その推定を示すものでもありません。

本資料に記載されている当社グループ以外の企業（SB ファンドの投資先を含みますが、これに限られません。）に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性について保証するものではありません。

商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

重要なお知らせ―SBG の普通株式の取引、スポンサーなし ADR（米国預託証券）に関する免責事項

SBG の普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBG の開示は、スポンサーなし ADR（以下「ADR」）の取引の促進を意図するものではなく、ADR の取引を決定する際に依存してはなりません。SBG は、SBG の普通株式に関するスポンサーなし ADR プログラムの設立又はそれに基づき発行される ADR の発行若しくは取引について、過去及び現在に、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBG は、ADR 保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBG が 1934 年米国証券取引法（以下「証券取引法」）で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBG のホームページに、SBG が証券取引法ルール 12g3-2(b)に従って証券取引法に基づく SBG の普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に記載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用法が許容する最大限の範

囲において、SBG 及び当社グループは、SBG の普通株式を表象するスポンサーなし ADR に関連して、ADR 保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を負うものではないことを表明します。

上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社や Z ホールディングス株式会社などの、スポンサーなし ADR プログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券に同様に適用されます。

本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供のみを目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又はソフトバンクグループ株式会社の子会社（以下「SB ファンド運用会社」といい、SB Investment Advisers（UK）Limited 及びその関係会社を含みます。）により運用されるいずれかのファンド（文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて「SB ファンド」といい、ソフトバンク・ビジョン・ファンド・エル・ピー（以下「ビジョン・ファンド 1」）を含みます。）のリミテッド・パートナーシップ持分若しくは同等の有限責任持分の売却の申込み若しくは購入の申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依存してはなりません。

SB ファンド、SBIA を含む SB ファンド運用会社、SB ファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG 又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるとにかかわらず表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されている情報は SB ファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又は SB ファンド運用会社により運用される後続ファンドの将来のパフォーマンスについての誓約又は表明として依拠されるものではありません。

疑義を避けるために付言すると、SB ファンドは、SB ファンド運用会社により運用される従前のファンドであり、投資家に対して販売されていません。SB ファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連する SB ファンド、本資料に言及されるその他のファンド又は SB ファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮すべきではありません。SB ファンド

の特定の投資対象に関する言及は、それに含まれる範囲で、関連する SB ファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明するためだけに述べられたものであり、いずれか特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SB ファンドの各投資の投資パフォーマンスは異なる可能性があり、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連する SB ファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。

本資料に記載される SB ファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連する SB ファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因（例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。）に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関連する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に変化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連する SB ファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつか要因がある中で特に、将来の運用実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連する SB ファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。

過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SB ファンド又は SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各 SB ファンド又は関連する SB ファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。

SB ファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、本資料に記載されるパフォーマンス情報と著しく異なる可能性があります。本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むものである、又は、将来行われる投資が本資料に説明される投資と質又はパフォーマンスの点で同等であると仮定すべきではありません。

本資料に記載される第三者のロゴ及びベンダー情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SB ファンド運用会社、SB ファンドのポートフォリオ会社、SB ファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又はソフトバンクグループ株式会社が、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。

SBIA は、SBG から別個独立した業務プロセスを運用しており、ビジョン・ファンド 1 を含む SBIA によって運営されている SB ファンドは、SBIA 単独で運営されています。